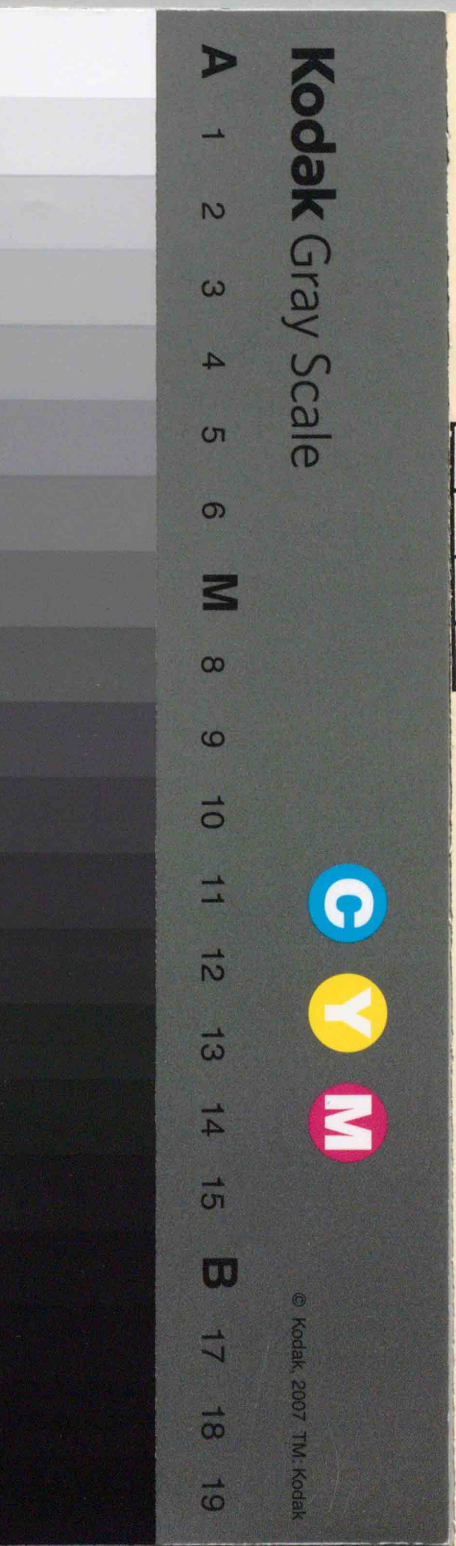
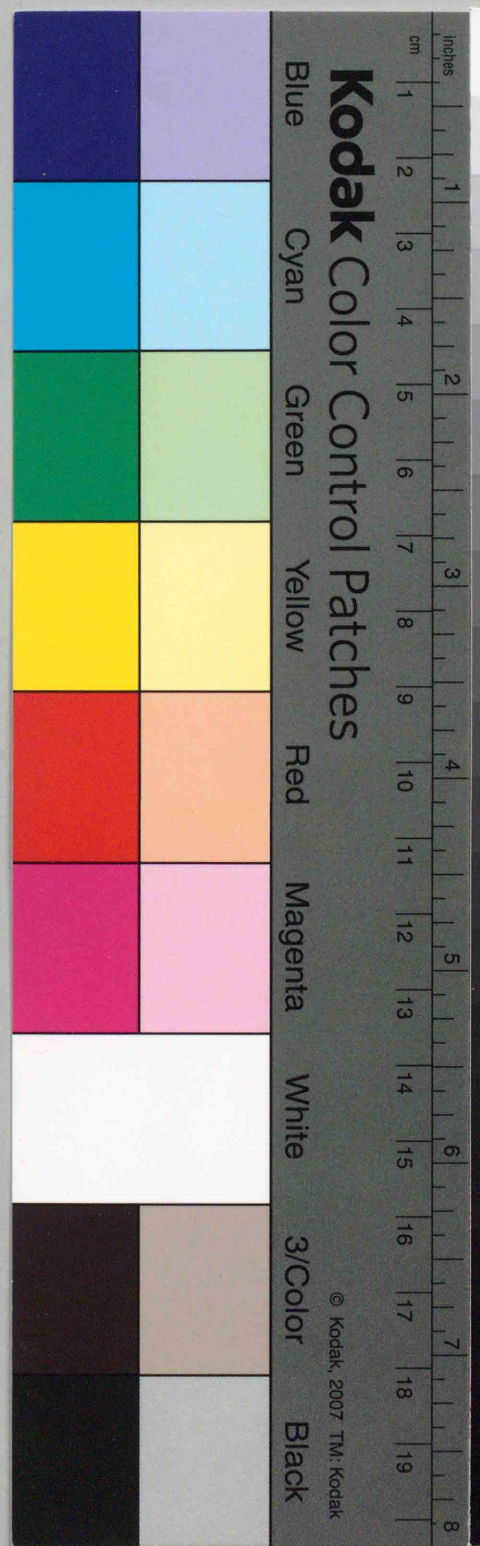
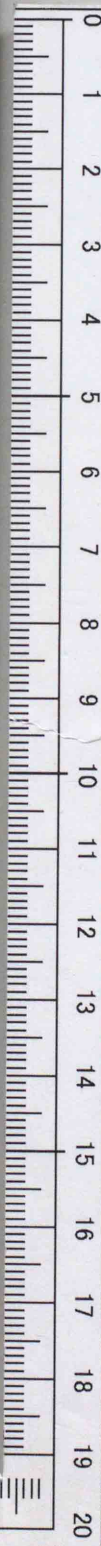


標準
書科教科業作

篇藝園
二卷
次寬藤佐
著

教科書文庫
4
620
31-1935
2000302814



43436

教科書文庫

4
620
31-1935
20003 02814



中央図書館
資料室

教科書文庫
4
620
31-1935
2000302814

標準
書科教科業作

篇藝園

授教學大國帝京東

士博學農

次寬藤佐

著



広島大学図書

2000302814



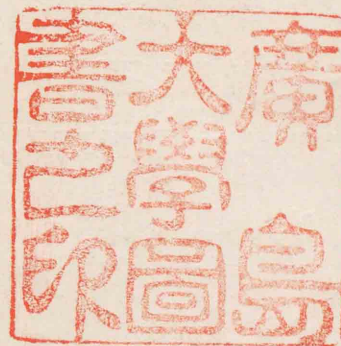
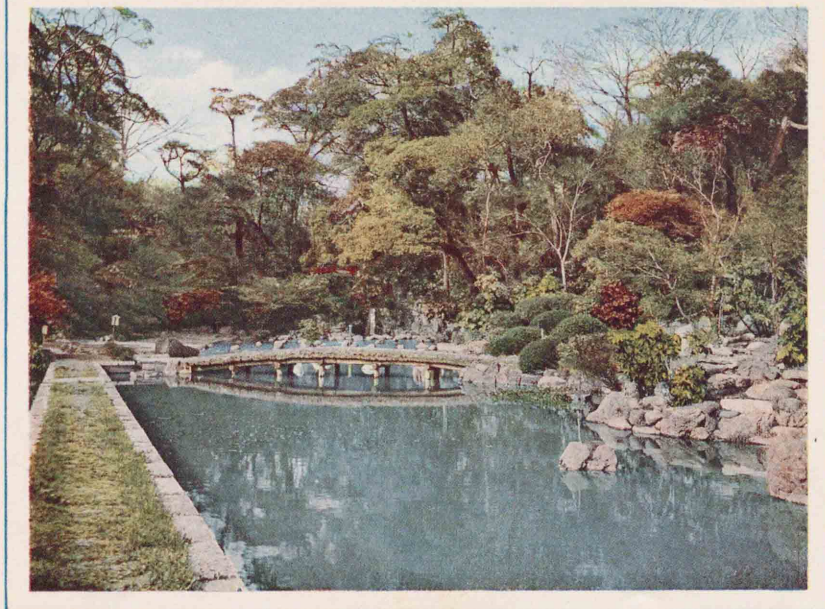
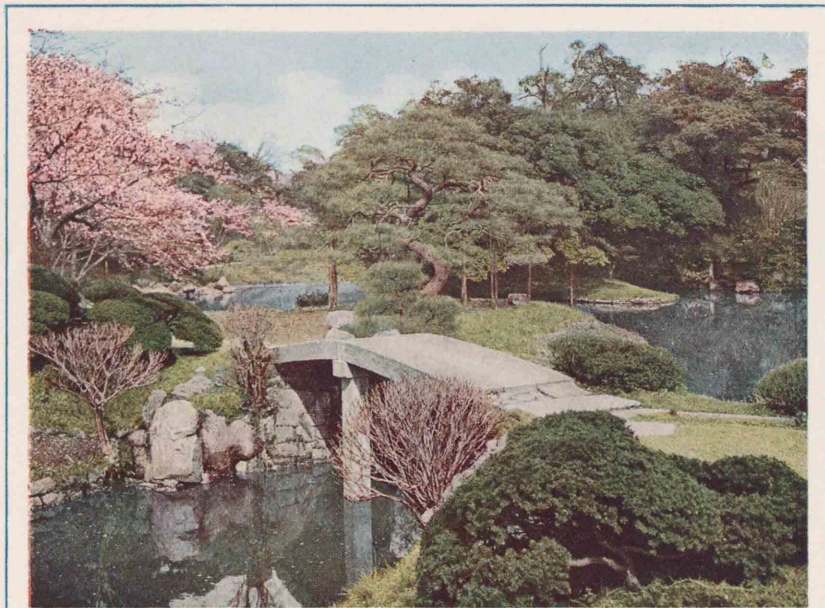
館成開京東

(本書のサイズは、規定規格A5判)

3759
5d20

野中蘭夫

後樂園



標準作業科教科書 園藝篇 卷二

目次

第一章 苗床	一
○園藝作業 四月	二
第二章 茄子の栽培法	三
○園藝作業 五月	六
第三章 瓜類の栽培法	九
○園藝作業 六月	四
第四章 夏の蔬菜の栽培法	六
○園藝作業 七月	三
○園藝作業 八月	四

第五章 園藝用藥劑とその使用法……………三五

○園藝作業 九月……………三三

第六章 園藝と病蟲害……………三四

○園藝作業 十月……………三六

第七章 庭園樹木の入手……………三七

○園藝作業 十一月……………三四

第八章 農業細工物……………三五

○園藝作業 十二月……………三七

第九章 蔬菜の高等栽培法……………三七

○園藝作業 一月……………三六

第十章 農業氣象とその觀測……………三六

○園藝作業 二月……………三九

第十一章 災害の防止法……………三九

○園藝作業 三月……………三九

第十二章 農業の貴重……………三九



標準作業科教科書 園藝篇卷二

苗床

良苗の仕立
方

徒長軟弱なひよ
ろひよる苗はよ
くない。

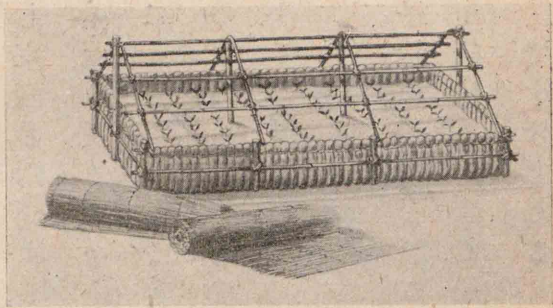
第一章 苗床

良苗の仕立方 作物の種子は田畑に直播ちきまするのが普通であるけれども、また苗床で苗を仕立てて本圃に移植する場合もある。作物は苗床に於ける間の育成如何によつて將來の運命を支配されるから、苗の仕立方には周到に注意しなければならぬ。

苗は強健粗剛、即ち地上部莖葉も地下部根も共によく發育して移植に堪へるもの、換言すれば植傷うみみの少ないものが最もよい。かやうな良い苗は如何にして仕立てられるかといふに、(一)温度が適當でなければならぬ。温度が作物の發芽に必要なことは前に述べた通り

であるが、その生育にもまた重要な関係がある。苗は通常まだ気温及び地温の低い頃に仕立てるのであるから、なるべく温度を高くすることが必要である。(二)水分が適度でなければならぬ。水分は作物の発芽にも成長にも必要であるが、それが多過ぎるのはよくない。殊に多湿で高温の場合には苗が徒長して軟弱となるから、よく注意することが必要である。(三)日光によく當てなければならぬ。作物は特に幼苗の頃には強烈な日光を忌むものであるが、一般に日光を好むのがその本性であるから、努めて太陽の熱と光と紫外線とに浴しさせることを忘れてはならぬ。(四)空気の流通をよくしなければならぬ。茄子胡瓜などの軟かい苗に急に冷たい空気を當てるのはよくないけれども、さうかといつてこれ等の苗を大切に過ぎるあまり空気の流通を不十分にして、軟弱にならせることは慎むべきである。

六土質
五肥料

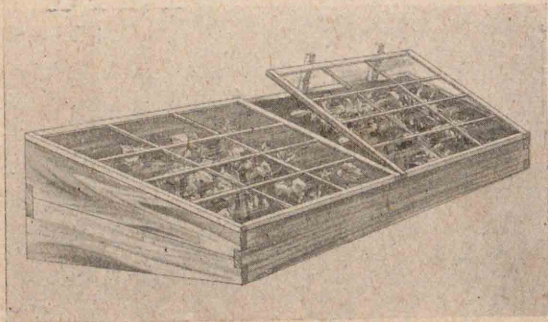


高設温床

苗床 早期栽培を目的とする茄子・胡瓜などの苗を仕立てるには自然の温度だけでは不十分であるから、特に人工によつて苗床に熱を與へて、これに播種育成することが必要である。かやうな苗床を温床といふ。

温床に對して冷床がある。冷床は特に人工によつて熱を與へない苗床である。葱・甘藍・高苜などの苗床は冷床であり、稻の苗代もまた冷床の一種である。

温床には、土を掘つて踏込む低設温床と、土



低設温床

を盛つて地上に踏込む高設温床とがある。
 苗床の位置は南に面して日當りがよく、北西に建物その他寒風を防ぐもののある處がよい。北西に寒風を防ぐものがなければ、藁圍または生垣を作ることが必要である。その高さは、北側は約四mとし、東西の兩側はこれに應じて傾斜させる。

冷床の作り方

冷床の作り方は作物によつて一様でないが、凡そ幅一・二m、長さ適宜に定め、丁寧に耕して土塊を碎き、腐熟した肥料を施すのである。そして、その上に豫め用意しておいてある肥土を篩ひかけて播種する。

作物の中、本圃に定植するまでに數回假植する必要があるもの、種子量の節約を圖る必要があるもの、苗の育成上特に注意する必要があるものなどは冷床に播種する。かやうな作物は何れも天然の温度で十分である。

冷床に播種すべき蔬菜

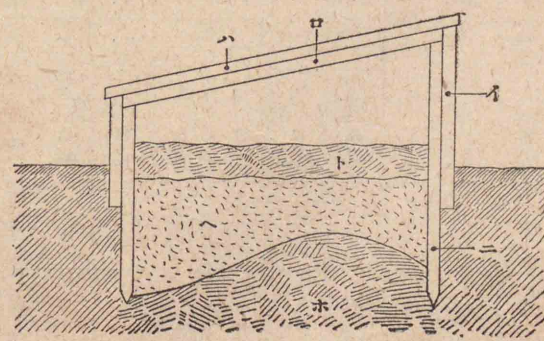
種類	播種期	發芽に要する日數	坪の播種量 三・三a% (二坪)	一〇a(一段)に要する苗床の面積		
				面積	移植回數	移植面積
葱	三四月—九月	八日—十日	七%	三三・〇a%	—	—
玉葱	九月	八日—十日	七%	三三・〇a%	—	—
甘藍	四五月—九月	三日—五日	四%	三三・三a%	二回	二六・四a%
蒿苣	隨時	四日—七日	二%	一〇・〇a%	二回	—
京菜	九月	三日—五日	二%	一〇・〇a%	一回	—
玉蜀黍	三四月	五日—七日	四〇%	一六・五a%	一回	五〇・〇a%
二十日大根	隨時	三日—五日	七%	—	—	—
三寸胡蘿蔔	隨時	十日—十五日	五%	—	—	—
アスパラガス	三月—五月	十五日—二十日	九%	二〇・〇a%	—	—
セルリー	三四月	五日—七日	五%	六・六a%	二回	六六・〇a%

温床の作り方

温床の作り方には、周圍を藁で圍ふ場合と、板煉瓦・コン

クリートなどで作ったフレームを用ひる場合とがある。
 フレームを用ひる場合には、普通に長さ四m、幅一・二m、前方の高さ
 三〇乃至四五cm、後方の高さ六〇乃至七
 五cmぐらゐとする。障子には油紙硝子
 なぎを用ひ、その開閉に用ひる段木は約
 四五cmとする。そして温熱の放散と雨
 水の浸入とを防ぐために、藁菰こも古俵亜鉛
 板などを用意する。

温床に用ひる醸熱材料は、馬糞、落葉、塵
 芥、紡績屑など、その地方で得易く、且つ安
 價なものを選ぶがよい。此等の醸熱物
 を踏込むには、先づ床穴を深さ三〇乃至六〇cmとし、中央部を浅く、周
 圍を深く掘つて、落葉を床穴の底に敷き、馬糞塵芥糞などを入れ、下肥



面断横の床温
 柱(ニ) 子障(ハ) 木棧(ロ) 框(イ)
 土床(ト) 物熱醸(ナ) 底床(ホ)

汚水などで湿し、その上に落葉を撒布して踏付け、そして數回かやう
 にして圖のやうな高さに達しさせるのである。醸熱物の踏込み方
 は、作物の種類や播種の時期などによつて手加減をし、そして、踏込ん
 だ上に肥えた床土を入れる。床土は菜種粕、木灰、過磷酸石灰、人糞尿
 のやうなものを混合して腐熟させたものを用ひるがよい。

醸熱物踏込の標準 (茄子、胡瓜の苗床で幅一・二m、長さ四mの框一框分)

一、堆肥を主とする場合

[材料の種類]		[重量]	[厚さ]
(イ)	新鮮厩肥(馬糞二〇%内外を混じたもの)	三七五—四五〇kg	三六—四五cm
	落葉	五六—七五kg	
	稍腐熟した厩肥	二六三—三七五kg	
	藁または乾草	七五—一一三kg	
(ロ)	落葉	五六—七〇kg	三六—四五cm
	人尿	五四—九〇l	

二、紡績屑を主とする場合

紡績屑(下等品の綿の量の多いもの)

一二五—三〇〇 kg

二七—三六 cm

落葉

七五—一一三 kg

三八—七五 kg

四五〇—五四〇—

三、稻藁を主とする場合

一五〇—二二五 kg

三六—四二 cm

米糠

二七—四五—

落葉

五六—七〇 kg

人糞尿

三—四荷

四、落葉を主とする場合

一一八—二六三 kg

四五—五一 cm

乾草

七五—一一三 kg

米糠

三六—五四—

三—四荷

人糞尿

フレームは大抵十一月頃から三四月頃まで使用するもので、日常の管理としては灌水と通風とが必要である。灌水は三月上旬頃まではなるべく微温湯を用ひ、晴天の日中に於てするがよい。通風は障子の開閉の調節によつてする。即ち冬季は午前十時頃気温の稍上つた時に障子を開き初め、午後は早目にこれを閉じて覆をするのである。

温床に播種すべき蔬菜

種類	播種期	発芽日数	覆土の深さ	備考
胡瓜	二月上旬—三月中旬	四日—七日	六—九 mm	
茄子	一月中旬—二月中旬	七日—十日	三—九 mm	一晝夜微温湯浸漬
トマト	二月上旬—三月上旬	五日—八日	三—九 mm	
西瓜	三月中旬—三月下旬	七日—十日	九—一五 mm	鉢播または稻株播
南瓜	二月下旬—三月上旬	五日—七日	九—一五 mm	

甜瓜・越瓜	三月中旬—四月上旬	五日—七日	六—九mm	鉢播または稻株播
扁蒲	三月中旬—四月上旬	五日—八日	一五—二二mm	
甘藷	三月上旬—三月下旬	十日—十五日	一五—二四mm	更に糞糞の被覆を要する

園藝作業
四月

◎園藝作業 四月

一、蔬菜の手入

- (イ) 西瓜・甜瓜・越瓜などの播種 此等の瓜類は移植を忌むから、霜害の虞のない頃(四月中旬—五月上旬)になつて本圃に直播する。
- (ロ) 菜豆・大豆・枝豆・落花生・玉蜀黍・牛蒡・野蜀葵などの播種 菜豆・枝豆・玉蜀黍などは本月から五月にかけて本圃に直播するのが普通であるが、また床播として移植することもある。また牛蒡は、秋牛蒡は本月から五月にかけて畑に直播して秋冬の頃に收穫するけれども、夏牛蒡は九月頃に播種して翌年の夏秋の頃に收穫する。(牛蒡は連作を忌む)
- (ハ) 茄子・トマト・瓜類などの假植 温床に播種して育成した茄子・トマト・胡瓜その他の苗は、冷床に假植して細根を多く發生させる。冷床は夜間防霜に注意する。
- (ニ) 甘藍類の假植 冷床に播種して育成した甘藍類の苗も、また本月から五月にかけて假植する。

(ホ) 芋類の植付 里芋は本月から五月にかけて種芋を基肥の側に植付ける。過磷酸石灰・堆肥・木灰などは多くは基肥として用ひる。長薯薯類は三月末から本月にかけて種薯を本畑に植付ける。種薯はムカゴを播いて育成することも出来る。また長大な塊根を切り、その切口に木灰などを塗つて植付けてもよい。

二花弁の手入

- (イ) 播種 前月播き遅れた草花類を播種する。
- (ロ) 定植 秋播いて霜除の下で越冬した苗を花壇鉢などに植込む。
- (ハ) 球根 ダーリア・カンナ・グラデオラスなどを植込む。
- (ニ) 施肥 移植して根付いたものに液肥を施す。

茄子の栽培法

第二章 茄子の栽培法

茄子

茄子は煮たり、漬けたり、焼いたりして食する重要な蔬菜で、温
暖な氣候を好み、砂質壤土に適する。その品種には蔓・細・干・成・山・茄子、
水・茄子、大・丸・茄子、巾・着・茄子、博・多・茄子などがある。

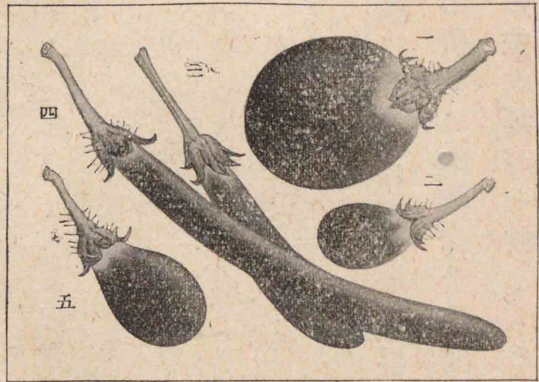
水・茄子・大・丸・茄子・巾・着・茄子・博・多・茄子などがある。

茄子の品種

品 種	早 晩	果形(大きさ)	色	備 考
蔓 細 干 成	極めて早生	小形長卵形	紫紺色	豊産促成可
山 茄 子	中生晩生	卵形	紫紺色	豊産性質強
水 茄 子	中生	長形	紫紺色	豊産品質稍劣
大丸茄子	晩生	大形圓形	紫紺色	質軟味佳
巾着茄子	中生	巾着形	淡紫紺色	
博多茄子	晩生	長形	紫紺色	

茄子の栽培法

茄子は早春温床に播種し、發芽後は間引を行ひ、第一回の假植は本葉が十分開き、將に第二葉が現れようとする頃に行ひ、その後本葉が七枚ぐらゐになるまでに四五回假植し、五月上旬に定植



種品の茄子
 子茄丸大(一) 子茄水(四)
 成干細蔓(二) 子茄山(五)
 子茄多博(三)

する。

茄子の苗は麥の條間に植ゑることが多い。麥の條間に植付けると麥に保護されて植傷みが少い。茄子は植付の方法及び植付後二三日間の天候

などが根の活着延いてはその發育に至大の關係があるから、植付には最も注意しなければならぬ。即ち植付の前に苗床



立仕本三の子茄

に灌水しておき、苗の根を傷めないやうに床土を十分附けて丁寧に掘取り、植付の際にも根を曲げないやうにすることが大切である。茄子は栽培及び收穫の期間が長いから、肥料を十分に施さなければならぬ。

茄子の施肥量の一例 (20a 當り)

肥料名	總量	基肥	補肥(一)	補肥(二)	補肥(三)	補肥(四)	補肥(五)	三要素量
堆肥	一一二五 kg	三七五 kg	—	—	七五〇 kg	—	—	N 三三・二五 P 一三・七〇 K 一六・七八
硫酸アンモニア	五七 kg	—	—	一九 kg	—	一九 kg	一九 kg	
人糞尿	一八七五 kg	三七五 kg	三七五 kg	—	三七五 kg	三七五 kg	三七五 kg	
菜種油	七五 kg	—	—	—	三八 kg	三七 kg	—	
木灰	五六 kg	五六 kg	—	—	—	—	—	
過磷酸石灰	一九 kg	—	—	一九 kg	—	—	—	—

茄子は施肥と共に中耕土寄を行つてその倒伏を防ぐがよい。ま

た枝の發生を放置しないで、主枝を三本仕立または四本仕立とし、日當りをよくして色澤のよい果實を生産することは、最も進歩した方法である。

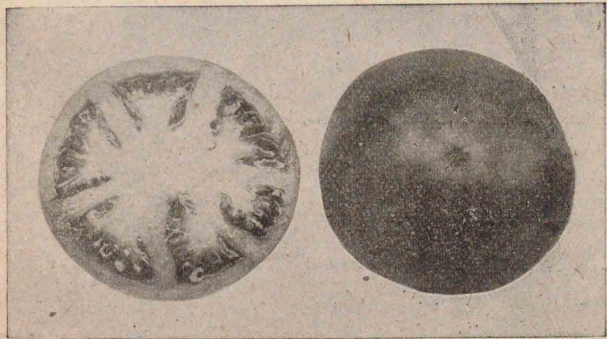
茄子の病蟲害

茄子の病蟲害 茄子の病害には青枯病・褐斑病・なごがある。また害蟲には夜盜蟲・偽瓢蟲・なごがある。(園藝と病蟲害の章参照)

トマト

トマト トマトは風味が淡快で、近來我が國民一般の嗜好に適するやうになり、需要が増加して來た。トマトは豊産で而も夏の乾燥にも堪へるから、家庭園藝にも適する。料理としては、サラダ・スープなどに用ひる外、ソースケチャップ・ジャムなどとして貯へることが出来る。また滋養に富んでゐるので生果として

¹⁾ トマトを煮て裏濾で濾したものは諸種の料理の調味料として用ひられる。
²⁾ ユイタミンを多く含んでゐる。



(ザーロデング) トマト

しても尊ばれる。

トマトの品種には、ボンデローザ・スパークス・アーリアナ・ミカドなどがある。

トマトの手入は側枝の剪除と縛付とが最も重要である。

◎園藝作業 五月

一、蔬菜の手入

- (イ) 温床で發芽させた甘藷の蔓を切つて本圃に挿植する。これを甘藷の蔓（蔓）挿（挿）といひ、本月から六月上旬にかけて行ふ。
- (ロ) 茄子・トマト・胡瓜・準人瓜などの苗を植付ける。
- (ハ) 春播甘藍・秋播葱を定植する。
- (ニ) 春播牛蒡・三寸胡蘿蔔・大根などの間引・施肥・中耕を行ひ、茄子・胡瓜・南瓜などの施肥をする。
- (ホ) 胡瓜・南瓜などの摘心を行ふ。
- (ヘ) トマト・胡瓜・菜豆などに支柱を與へる。
- (ト) 瓜・哇・薯の芽搔（芽搔）・施肥・中耕・土寄・ポルドー液撒布などを行ふ。
- (チ) 苺（苺）の走蔓（走蔓）を切り除く。
- 二、花卉の手入
- (イ) 移植 發芽した幼苗を假植して丈夫な苗に仕立てる。

1) 芽搔は四月に行はなかつたものに行ふ。
2) 苺は苗を養成する場合には走蔓を切り除かない。

瓜類の栽培法

胡瓜

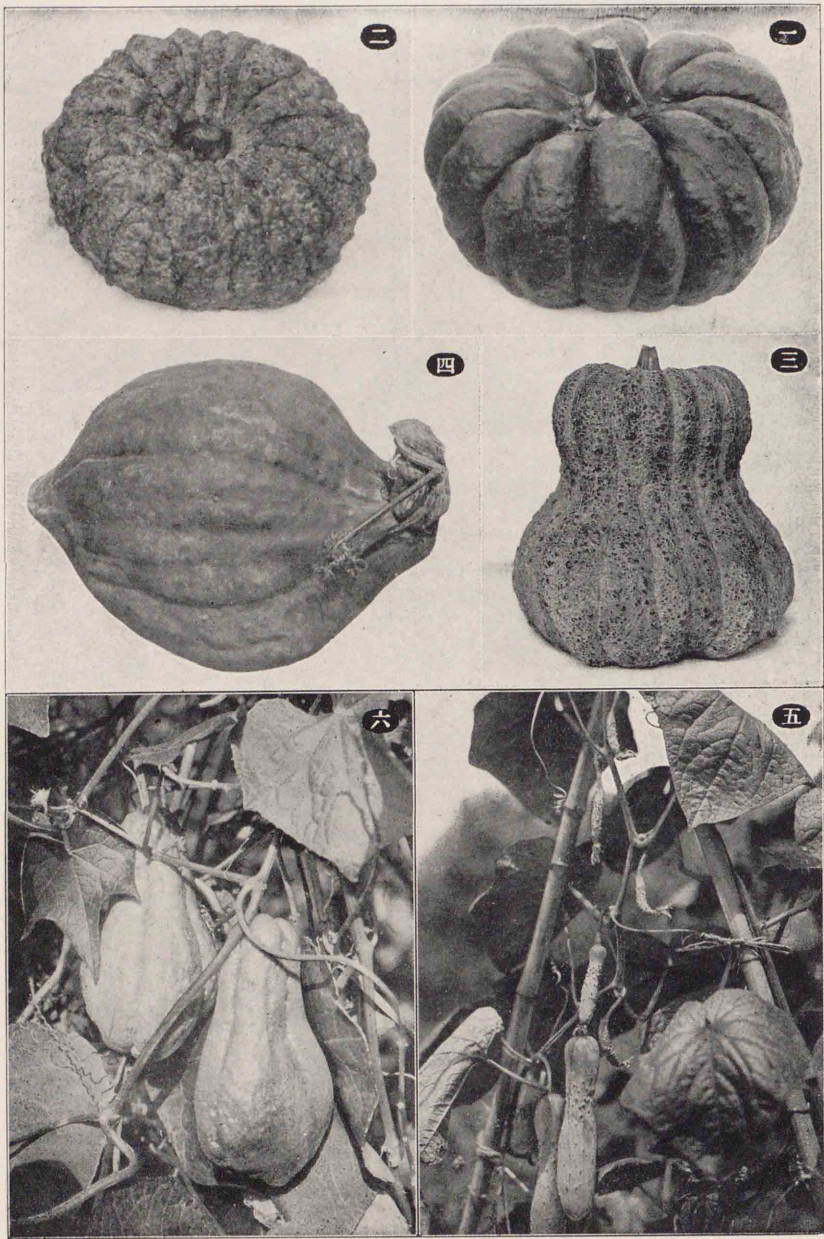
第三章 瓜類の栽培法

胡瓜 胡瓜は酢揉（酢揉）または鹽漬とし、時としては煮て食する。その品種は節成種と大胡瓜種とに大別する。

胡瓜の栽培上大切なことは苗の育成である。通常、早春温床を設けて播種し、二・三回移植して苗を強壯に仕立て、晩霜の虞のなくなつた五月上旬頃に本圃に定植する。

本圃は豫め作間約一mに大麥を栽培しておき、その南側に基肥を施して胡瓜を植付けるとよく發育する。胡瓜の伸長するに伴ひ、麥は一作置きに早く刈取り、中耕を行ふと共に、作間に多くの肥料を施

種品の類瓜



瓜人隼(六) 瓜胡(五) ドーパツハ(四) 瓜南京西(三) 瓜南縮(二) 瓜南座菊(一)

南瓜

し、支柱を拜合なみあはせに立て、目通りの高さで交叉かうささせる。この時肥料はなるべく土の上に施し、その上を敷藁で覆ひ、胡瓜をして上根を張り根の呼吸作用を旺盛わうせいにさせることは栽培上頗る重要である。

胡瓜の病害には露菌病べいじんびょう、炭疽病たんじゅびょうなどがあり、害虫には瓜守蚜うりほあひらせなどがある。(園藝と病蟲害の章参照)

胡瓜の手入には補肥を施し、中耕を行ひ、敷藁を與へることなどがある。また大胡瓜種には特に摘心を行つて結實を促進することが必要である。

南瓜 南瓜は煮または蒸して食する。南瓜の品種には菊座縮、緬西京、ハツバードなどがある。

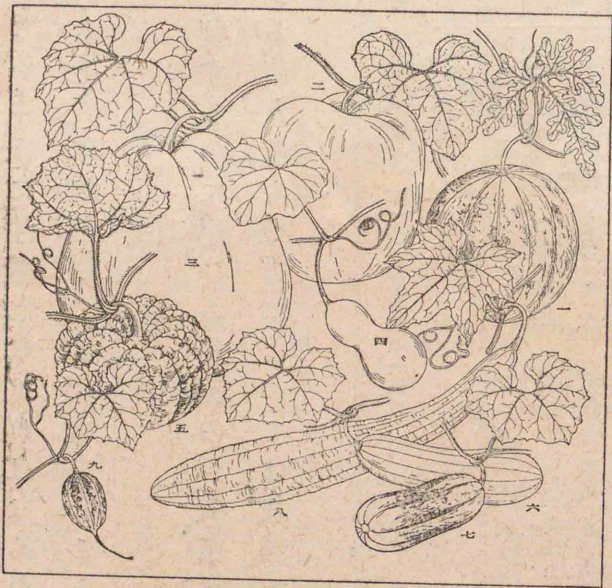
南瓜は直播することもあるが、通常は苗を仕立てて後本圃に移植する。南瓜も大麥の條間に移植するのが普通である。その栽植の距離は條間一・二m、株間約一mが適當である。本圃は豫め穴を掘り

人工媒助とは人工によつて雌蕊の柱頭に雄蕊の花粉を交配することをいふ。これは開花中午前十時から午後一時までの間になすがい。

堆肥・下肥・米糠・過燐酸石灰・草木灰などを入れ、よく土と混和しておいてから苗を植付ける。

定植後は施肥・中耕をなし、根元に麥稈を敷き、摘心を行ふと、収穫を早め、良品を産する。開花期に霖雨がある時には人工媒助を行ふがい。

その他の瓜類 瓜類の中、南瓜のやうに摘心を要するものには、越瓜・甜瓜などがある。此等は多少結實の習性を異にするから、よくこれを辨へ、



瓜類
 (一) 瓜西 (二) 瓜冬 (三) 蒲扇 (四) 草瓜
 (五) 瓜南 (六) 瓜越 (七) 瓜甜 (八) 瓜絲
 (九) 瓜玉 (りうすらか)

主枝は四五節で摘心を行ひ、三本または四本の側枝を出させてこれに結實させる。

摘心並に整枝方法を誤らないやうに注意しなければならぬ。また西瓜は最も連作を忌むから、七八年間を隔てて栽培することが必要である。

その他瓜類には干瓢を製するのに用ひる扁蒲の外、絲瓜瓢箆など種類が多い。漬物に用ひる隼人瓜も地方によつては栽培される。

瓜類の栽培 (二〇a 當り) (東京附近の一例)

種類	著名品種	播種期	播種量	移植期	株間	肥料		手入	收穫期	
						基肥	補肥			
南瓜	縮菊 緬座	旬上月三	三六一% 五四一%	五月 上旬	一m × 二m	堆肥 下肥 米糠 灰 過磷酸灰	下肥	二回	整枝 摘心 人工授粉 (敷藁)	七月上 旬から
胡瓜	節成 半白	旬上月三	一八一% 二〇〇本	五月 上旬	五〇cm × 一m	堆肥 下肥 大豆粕 灰 過磷酸灰	堆肥 下肥 米糠 灰 過磷酸灰	三回	支柱(五m) 及び縛付・銅 石鹼液撒布	五月下 旬から

西瓜	甜瓜	越瓜	冬瓜	扁蒲	隼人瓜
大和西瓜 アリス アサキム アインベリ	梨瓜 漿瓜 金甜瓜	早生越瓜 東京大越 瓜・桂瓜	早生冬瓜		
旬下月四 (月三は播床)	旬下・中月四	下・中月四 から旬	旬上月三	旬中月三 旬上月四	旬中月四
三六一%	二七一%	二七一%	一	七二一%	
四月 下旬		四月 下旬	五月 上旬	五月 上旬	
一・二m × 二・五m	一・二m × 六〇cm	二m × 六〇cm	一m × 二m	四・四m × 四・四m	四m × 四m
下肥 米糠 灰 大豆粕 灰 過磷酸灰	下肥 魚肥 堆肥	同前	南瓜に準ずる	堆肥 下肥 餅肥 灰	甜瓜に準ずる
堆肥 下肥 米糠 灰 大豆粕 灰 過磷酸灰	堆肥 下肥 魚肥 堆肥	同前	南瓜に準ずる	堆肥 下肥 餅肥 灰 過磷酸灰	甜瓜に準ずる
三・四回	一・二回	三回	二回	二回	二回
敷藁 整枝	敷藁 整枝 摘心 藥劑撒布	同前	敷藁	摘心 整枝 敷藁	柵作り
七月下 旬から	八月中 旬頃	七月初	七月	八月	

◎園藝作業 六月

一 蔬菜の手入

- (イ) 胡蘿蔔の播種 普通の胡蘿蔔は本月から八月にかけて播種する。その條間は四五乃至六〇cmとして條播にし、二三回間引いて株間を二〇cm内外にする。播種の際には種子の上に極めて薄く土を覆うて鎮壓し、その上を切藁などで覆うて乾燥を防ぎ、なほ乾燥の甚だしい時には夕方になつてから灌水する。
- (ロ) 苺苗の育成 苺の走蔓ウツヅに生じた苗を親株から切り取つて苗床に假植する。これは本月下旬から七月にかけて行ふ。
- (ハ) 茄子の補肥摘芽 補肥として下肥などを與へ、また一番成いちばんなりのすぐ下にあつる二三の腋芽えきぎを残して、その他の腋芽を摘除する。
- (ニ) トマトの補肥摘芽摘果 トマトには補肥として下肥などを與へる。また時々蔓を支柱に誘引して、葉腋に生ずる嫩葉ななえを摘除する。なほ果實は適宜間引いて残りのものを肥大させる。

- (ホ) 胡瓜の補肥病害豫防 胡瓜には補肥として下肥などを施し、また蔓を支柱に誘引する。一番成はなるべく早く收めるがよい。なほボルドー液を撒布して病害を防ぐ。
- (ヘ) 牛蒡の間引補肥 牛蒡は本月下旬頃に間引を行つて一本とし、また補肥を與へる。
- (ト) 南瓜・西瓜の補肥敷藁 南瓜や西瓜には補肥を行ふ外、敷藁を與へることを忘れてはならぬ。

二 花卉の手入

- (イ) 菊の挿木 大菊の挿木をする。
- (ロ) 球根の掘上 花の終つた秋植球根の掘上に着手する。掘上げた球根は、風通しのよい處に並べ、陰干にした後、袋に入れて、秋の植付期まで風通しのよい涼しい暗い處に貯藏する。
- (ハ) 施肥 ダーリアなどに補肥を與へる。
- (ニ) 秋播草花の採種 秋播草花は隨時種子を採取して乾燥貯藏する。

夏の蔬菜の栽培法

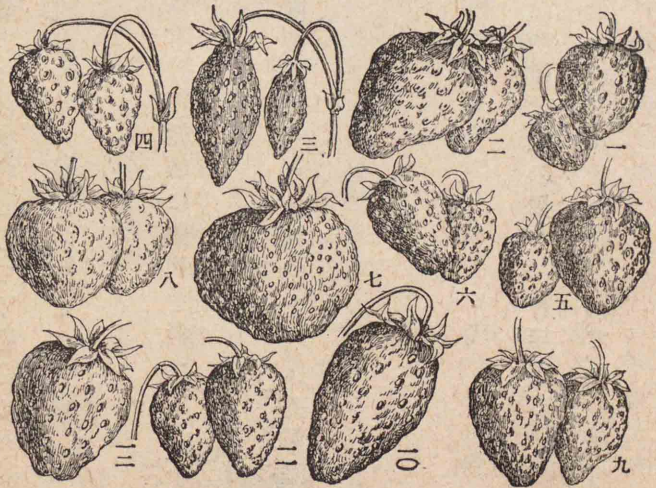
夏の蔬菜

第四章 夏の蔬菜の栽培法

夏の蔬菜

春から夏にか

けて栽培する蔬菜は、前章に述べた茄子・トマト及び瓜類などの果菜類を始め、夏大根・瓜哇薯などの根菜類・甘藍・高苺などの葉菜類。なごその種類が甚だ多い。
【莓】 莓は春夏の頃紅熟する。莓は栽培が容易であるから趣味的に栽培するのにも適する。



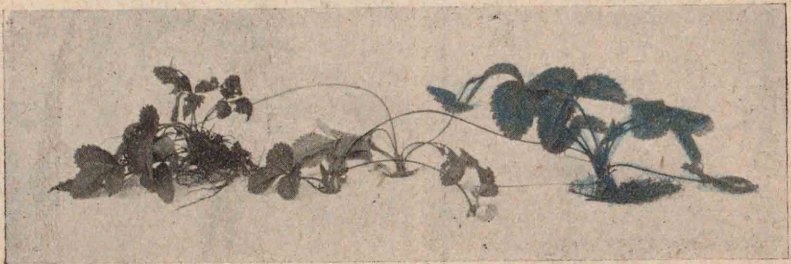
種品の莓

- (早の生中)ニイグ-シツテリブ (二) (生晩)シマ-エド-ルーアログ (一)
- トスクッパ-フセヨジ-サ (五) (生中)ルブ-ノ (四) (生早)莓羽福 (三)
- (晩の生中)ルレ-モ-ルトグド (七) (生中)スレブ-ヤシ (六) (生早)シ
- ラネエジ (三) (生早)シラ-モルビ (九) (生早)アリトクビ (八)
- グ (三) (生晩てめ極)ルー-オ-ブ-オ-トステ-レ (二) (生中)ダ-ン-ヤシ
- (生早)グ-リ-ド-シ-ス-ク-ラ

一回定植したものは、三年ぐらゐはそのまま栽培を繼續する。こゝとが出来ると、收穫後は敷藁を除き、走蔓を除去する。但し美大類を得ようとするには、毎年更新する必要がある。

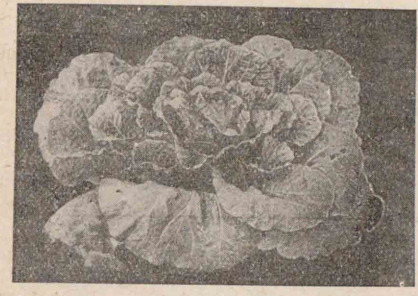
瓜哇薯

【瓜哇薯】 瓜哇薯は蔬菜として用ひるばかりでなく、澱粉製造の原料として貴重な蔬菜である。元來涼しい氣候を好み、北海道などには多量に産する。瓜哇薯の品種には白赤目薄赤などがある。瓜哇薯を栽培するには種薯を三四月頃または



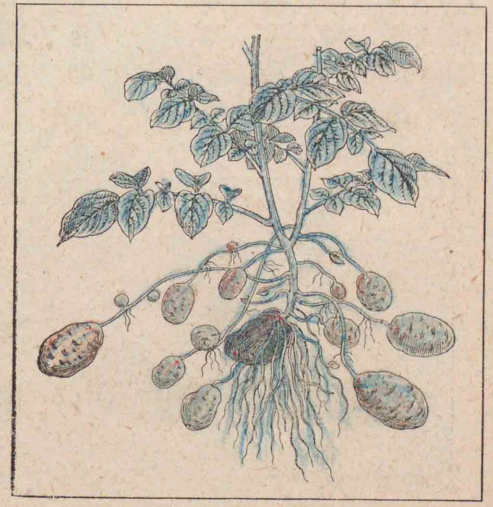
苗新の莓

八月頃に作間約六〇cm、株間約三〇cmとし基肥を施してその側に植ゑ、土を約六cm覆ふ。莖葉が相當に伸びると、二、三本の芽を残して他を除き、また補肥・中耕・除草・土寄を行つて塊莖の發育を助け、且つその露出を防ぐ。春植のものは六、七月頃、秋植のものは十一月頃收穫する。



甘 藍

瓜哇薯は連作しても差支はないけれども、最も恐るべきは疫病である。(園藝と病蟲害の章参照)
甘藍 甘藍は一にたまなともいひ、生のまゝサラドに用ひ、または漬物とし煮食に供する。早



薯 哇 瓜

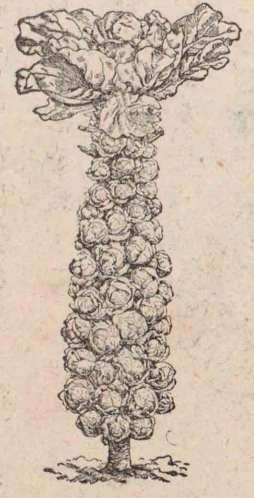
甘藍

甘藍は移植の際に不良苗を除く。不良苗は次のやうである。
1 莖葉が徒長して節間の長いもの
2 葉柄が長きに失するもの
3 葉に深い鋸齒のあるもの
4 葉が外方に披き過ぎるもの
5 葉腋から腋芽の發生分岐したもの

甘藍は歐洲の原産である。

子持甘藍

生のオールヘット、中生のサクセッション、晩生のオータムキングなどは有名な品種である。
甘藍は三、四月頃苗床に播種し、發芽後適宜に間引を行ひ、大抵二、三回移植し、本葉が七八枚發生するに及んで、基肥を施して本圃に定植する。普通作間七五乃至九〇cm、株間四五乃至六〇cmとする。移植後は中耕・除草を行ひ、數回補肥を施す。そして十分結球したら直ちに採取する。採取の時期を失ふと品質が悪くなる。病害には腐敗病があり、害蟲には蚜蟲、夜盜蟲、螟蛉などがあつた。
甘藍の種子はなるべく原産地から取寄せるがよい。
子持甘藍 子持甘藍は一に芽キャベツともいひ、甘藍の一種で、葉腋に生じた芽の成長したものである。



藍 甘 持 子

花椰菜

高苜

高苜圃は前作に十分堆肥を施した畑を選ぶがよい。高苜に直接堆肥を施すと根切の害や乾燥の害などが多し。また人糞尿の施用を避け、補肥の必要のあるときは硫酸アンモニウムを水に溶かして用ひるがよい。



花椰菜

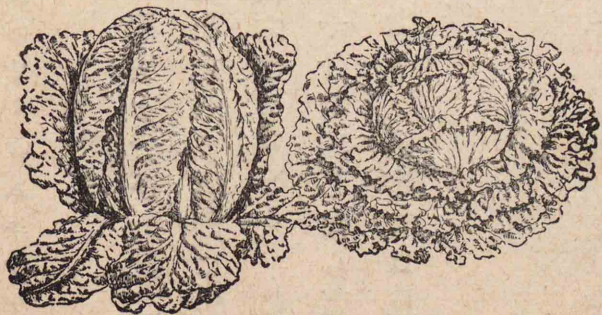
用ひる。高苜の種子は一度に多く播かないで、周歲播種生育するがよい。

甘藍高苜などを生食すると、各種のビタミンを攝取することが出来て、保健上有利である。

花椰菜 (コールフラー) 花椰菜は葉で囲まれた心部に生じた花蕾を食する。

高苜 高苜には軟葉の縮んだものや球をなしたものがある。

西洋料理に必要なものは玉高苜であつて、専らサラダに



立高苜

玉高苜

夏の蔬菜栽培 (二〇a 當り) (東京附近の例)

種類	著名品種	播種期	播種量	移植期	株間	肥料		補肥	手入	收穫期
						基肥	補肥			
茄子	中生山茄子 大丸茄子	二月中旬 下旬	九一%	五月上旬	一m × 二m	堆肥 四kg 大豆粕 九kg 米糠 七kg 灰 九kg	堆肥 二kg 大豆粕 七kg 米糠 七kg 灰 七kg	四回	整枝 (三又仕立)	七月初
トマト	スパーナス アリアナ ボンデロー (生)	三月上旬	九一%	五月上旬	一m × 五〇cm	堆肥 七kg 大豆粕 七kg 米糠 七kg 灰 七kg	堆肥 七kg 大豆粕 七kg 米糠 七kg 灰 七kg	四回	摘枝	七月初
蕃椒	八ツ房 獅子	三月上旬	九一%	五月上旬	六〇cm × 三〇cm	堆肥 七kg 大豆粕 七kg 米糠 七kg 灰 七kg	堆肥 七kg 大豆粕 七kg 米糠 七kg 灰 七kg	三回		七月初
苺	ドクトルモ ビクトリア クランドリ グランドリ			七月上旬 九月上旬	六〇cm × 三〇cm (四五cm四方)	堆肥 七kg 大豆粕 七kg 米糠 七kg 灰 七kg	堆肥 七kg 大豆粕 七kg 米糠 七kg 灰 七kg	九十月 二三月	(中耕) 除草	四月末 頃から
菜豆	群房 蔓無種	四月中旬	五四一 一二一		一m × 五〇cm 六〇cm × 二〇cm	堆肥 七kg 大豆粕 七kg 米糠 七kg 灰 七kg	堆肥 七kg 大豆粕 七kg 米糠 七kg 灰 七kg	二回	支柱 (敷)	

枝豆	瓜哇薯	夏大根	甘藍	萵苣
黒 早 魁 生	白 赤 目		サクセツ シヨシ キョウ オン ゲム	ワヤ ヘット
上 四 旬 月	四 三 月 一	三 月	四 三 月 一	随 時
三 六 一	一 七 〇 kg	七 〇 一 %	二 一 %	九 一 %
六 〇 三 〇 cm × cm	六 〇 三 〇 cm × cm	六 〇 三 〇 cm × cm	六 六 六 六 cm × cm	一 五 一 五 cm × cm
過 磷 酸 灰	木 過 磷 酸 灰	藁 米 大 灰 糠 豆 粕	下 藁 肥 灰 肥	堆 藁 肥 灰 肥
八 kg	九 三 八 kg 三 五 三 kg 四 五 kg	三 七 五 kg 三 七 五 kg 三 七 五 kg 三 七 五 kg 三 七 五 kg 三 七 五 kg	九 三 八 kg 一 二 三 kg 三 七 五 kg	三 七 五 kg 三 七 五 kg 三 七 五 kg
	下 肥	下 肥	下 過 磷 酸 肥	大 豆 粕 肥
	七 〇 kg	三 七 五 kg	一 五 〇 kg 二 六 kg 七 五 kg	
二 回	二 回	二 回	二 回	
	除 藥 (二 本 とす る) ボ ル ド ー 液 撒 布			
	七 月 六 日	七 月	七 月 八 日	

園藝作業
七月

◎園藝作業 七月

一、蔬菜の手入

- (イ) 胡蘿蔔の播種 前月から本月にかけて行ふ。
 - (ロ) 美濃早生大根の播種
 - (ハ) 春播葱の定植 本月から八月にかけて行ふ。
 - (ニ) 茄子・トマト・胡瓜、その他の補肥
 - (ホ) 胡瓜の手入 露菌病を豫防するためボルドー液を散布する。また胡瓜の根元に敷藁をなし、灌水などを行つて旱害を防ぐ。
 - (ヘ) 里芋の手入 里芋は種芋の上に親芋が生じ、それから子芋が生ずるから、土寄を十分に行ふことが大切である。また里芋は多湿を好むから、敷藁灌水などによつて旱害を防がなければならない。
 - (ト) 害虫の駆除 夜盗蟲・瓜守金龜子などに注意する。
- 二、花卉の手入
- (イ) 採種 前月に引續いて秋播の草花の採種をする。

- (ロ) 菊の定植 本月中に定植を終へる。
- (ハ) ダリアの手入 秋に咲かせるため幹の刈込をする。
- (ニ) 灌水 鉢植は殊に乾燥し易いからよく注意する。

園藝作業 八月

◎園藝作業 八月

一・蔬菜の手入

- (イ) 播種 秋大根・結球白菜その他の菘類・蕪菁などを播種する。その適期は地方によつて幾分時期を異にするが、東京地方では本月中下旬である。
- (ロ) 葱の施肥・土入
- (ハ) 里芋の敷藁灌水
- (ニ) 茄子の施肥・害虫駆除
- (ホ) トマトの摘芽
- (ヘ) 牛蒡の施肥・中耕
- (ト) 胡蘿蔔の間引施肥
- (チ) 甘藷の蔓返し

(イ) 除草 雑草が繁茂するから除草に努める。

二・花卉の手入

- (イ) 朝顔並に大輪菊の手入(巻一「園藝作」業八月参照)
- (ロ) 除草 殊に花壇は雑草が多く茂るから除草に努める。
- (ハ) 灌水 本月は非常に乾燥するから、朝の間に十分灌水し、日中はなるべくこれを避けるがよい。

園藝用薬劑とその使用法

第五章 園藝用薬劑とその使用法

ボルドー液

¹⁾ 正しくは「石灰ボルドー液」といふ。

ボルドー液

瓜類の露菌病その他蔬菜・果樹などの空気傳染による病害を豫防するのに最も有効なものはボルドー液である。

ボルドー液を製するには、豫め硫酸銅四五〇gを布袋などに入れて、三〇lの水中に吊して置いて溶解させ、また別に生石灰四五〇gを同じく三〇lの水に溶解させる。生石灰は初め少量の水を加へ

てふやかさないとい塊が溶けにくい。次に兩液を大桶の中に同時に混入する。この際、棒箒などで攪拌するがよい。かうして出來た蒼色液は六〇・一ポルドー液(三斗式ボルドー液)であるが、この外水の分量によつて四〇・一(二斗式)五〇・一(二斗五升式)八〇・一(四斗式)などが出来る。

ボルドー液を製するには、必ず木製の桶を用ひ、調製後直ちに使用するがよい。五六時間以上経過すると液が分離して藥効がなくなるばかりでなく、却つて藥害が生ずる。また調製法が悪く、混合が不十分であるためむらの多い液が出來ると、使用することが出來ぬ。



ボルドー液の調製

ボルドー液を撒布する時期は、發病期を標準として凡そ十日乃至二週間前に、發病すべき部分を考へて撒布する。またウドン粉病露菌病などのやうに不時に發生するものも、凡そ毎年發病の多い時期を豫想し、その以前に二、三回撒布するがよい。要は、豫め殺菌劑を撒布し、毒分を附着させて置いて、こゝに飛散して來て侵入しようとする病菌を死滅させるのにある。

ボルドー液の効能は十日間乃至二週間である。これを撒布するには普通ポンプを用ひる。

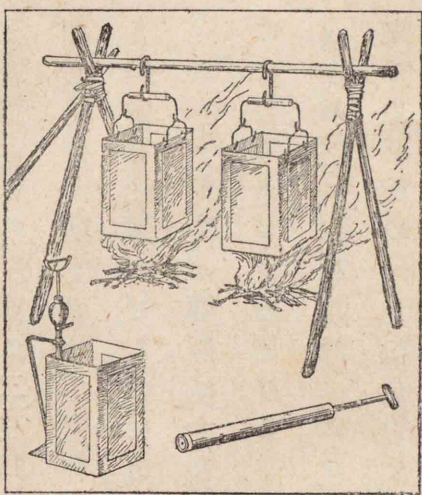
銅石鹼液

銅石鹼液

銅石鹼液は、ボルドー液の缺點を補ふため發明された藥劑で、生石灰の代りに石鹼を用ひるのが特徴である。ボルドー液に比較すると、有効日數は短い、が、作物を傷めることが少い。水二〇・一に對し硫酸銅一八乃至三〇と、その四五倍の石鹼とを加へる。石鹼は農用粉末石鹼が安價で且つ便利である。

石油乳劑

石油乳劑は、廣く用ひられる驅蟲劑で、蚜蟲、青蟲など各種の害蟲の驅除に有効である。これを製するには、石油二一、石鹼四五、水一の一の割合を以てする。石鹼は上等の白色浮石鹼を用ひ、薄く削つて水に入れ、加熱して溶解させる。次に石油を攝氏約七〇度に加



石油乳劑の調製

熱し、高温のまま、石油を少しづつ注加し、同時に攪拌器または竹筒ポンプなどで液を敏速に攪拌すると乳白色となる。容器には石油空罐を使用するのが便利である。調製後乳狀とならずに石油の分離するものは不良であるから使用してはならぬ。使用に際してはこの液を適宜に稀釋する。即ち蚜蟲には三〇倍乃至五〇倍、青蟲には二〇倍乃至三〇倍、食葉甲蟲には一〇倍

乃至二〇倍ぐらゐにする。

フォルマリン

フォルマリン 茄子の立枯病のやうな土中の細菌から生ずる病害の豫防は頗る困難である。生石灰、硫黄華、木灰なども相當に効力があるが絶對的ではない。フレームの床土を消毒するのに用ひるフォルマリンは、高價ではあるが効果が著しい。フォルマリンは、養蠶に於て蠶室、蠶具の消毒に、畜産に於て畜舎、畜具などの消毒に使用することが多い。

フォルマリンの殺菌作用は、その中に溶解してゐるフォルムアルデハイド、瓦斯に因るのであるから、この瓦斯が逃れ去らないやうに、目張その他の方法を講ずることが必要である。フォルマリン液は通常フォルムアルデハイド、瓦斯の含量を一乃至二%の濃度に薄めて用ひるがよい。

砒酸鉛

砒酸鉛は廣く用ひられる驅蟲劑で、夜盜蟲、青蟲などを驅除

するのに有効である。此等を驅除するには、砒酸鉛を作物の莖葉に附着させ、害蟲がこれを食害すればその毒によつて殺されるやうにするのである。

砒酸鉛の驅蟲劑を作るには、粉狀の砒酸鉛一ポンドを四〇乃至八〇の水に溶かす。沈澱を防ぎ、且つ附着をよくするために、通常カゼイン石灰粉末石灰などを用ひる。また溶解の際に水を徐々に加へることは塊をなくするため必要である。

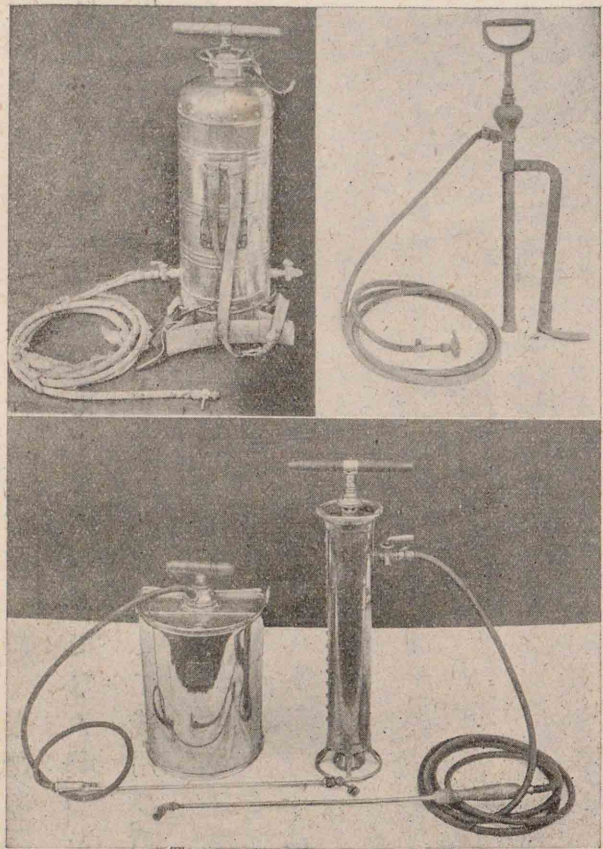
石鹼水

石鹼水は蚜蟲を驅除するのに用ひる。石鹼水は石鹼四乃至一一を薄く削つて湯で溶き、十分に冷却させ、これを二に薄めて用ひる。

石鹼水に除蟲菊を加用して除蟲菊石鹼液とすれば藥効が一層増加する。この場合には、水二〇に對して除蟲菊及び石鹼各五六乃至一一二の割合で用ひればよい。

園藝業が進歩すると共に、藥劑の使用は次第に盛になり、その種類もまた増加して來たから、その選擇には最も注意しなければならぬ

概して藥劑は効果の著しいものほど藥害を伴ふ危険が大であるから、その濃度・分量・施用時期などには細心の注意を拂つて、使用の目的を達するやうにすることが必要である。



噴霧器

藥劑を撒布するには噴霧器を用ひて藥量を節約すると共に、藥液が作物全體に附着するやうに丁寧に行はねばならぬ。藥劑の調製が悪いと、噴霧口を塞いで作業を困難にするばかりでなく、藥効を減じ、また藥害を生ずることを免れぬ。藥液は必ず濾して後用ひ、噴霧器は使用後よく掃除することを忘れてはならぬ。

園藝作業
九月

◎園藝作業 九月

一、蔬菜の手入

- (イ) 秋の蔬菜の播種 結球白菜以外の菘類、蕪菁、小松菜、菠薐草、春菊、龜戸大根、二年子大根、牛蒡などは本圃に直播し、甘藍、花椰菜、萵苣、葱、玉葱などは冷床に播種する。
- (ロ) 苺苗の定植 六七月頃假植して培養した苺の苗は、本月下旬頃本圃に定植する。
- (ハ) 胡蘿蔔の手入 七月頃に播種した胡蘿蔔は、早く間引を終へ、施肥、中耕して根の發育を圖る。
- (ニ) 秋大根、結球白菜の手入 秋大根や結球白菜は、間引、中耕施肥を行ひ、害虫の驅除に注意する。
- (ホ) 茄子、トマトの手入 茄子やトマトは、摘心を行ひ、補肥を施す。
- 二、花卉の手入
- (イ) 秋植球根の植付 水仙、チューリップ、ヒヤシンス、アネモネなどの春咲球根を

植付ける。

(ロ) 秋播草花の播種 金盞花・パンジー・スキートビーなど早春開花させる草花は彼岸を中心として播種する。

(ハ) 宿根草の株分 雛菊・アルメリアなどの宿根草は、本月から十月にかけて株分をする。

(ニ) グラデオラスの貯蔵 グラデオラスの根を掘り出して貯蔵する。

園藝と病蟲害

第六章 園藝と病蟲害

病蟲害

病蟲害

我等は日夕土に親しんでゐる間に種々の病害・蟲害を認めることが出来る。せつかく丹精をこめて栽培した草花・蔬菜などが、病蟲害のために滅ぼされるのは、我等の日常經驗するところである。併し、この病蟲害も或程度まではこれを豫防することが出来る。その豫防上の注意は次のやうである。

(一) 雑草落葉・塵芥などは病菌の媒介となり、害蟲の潜伏所となるから、これを除くこと。

(二) 畦畔の枯草を焼き拂ふこと。

(三) 作物の枯枝・枯葉・根株などには病菌及び害蟲の卵・蛹などが附着してゐることが多いから、これを燃料とすること。

(四) 病蟲害を受けた果實・穀粒などは適當に處分すること。

(五) 冬季の耕耨を丁寧にして、病菌及び害蟲を死滅させること。

(六) 倉庫内を清潔にして、病菌や害蟲の潜伏所とならないやうにする。

(七) 輪作を行ひ、また同科の作物は接近させて栽培しないこと。

(八) 肥料の配合に注意して、作物を徒長させないこと。

(九) 善良な種苗を選択して栽培すること。

(ロ) 果樹の苗木を栽植する前に病蟲害の驅除を行ひ、且つ栽植後は

主なる害蟲

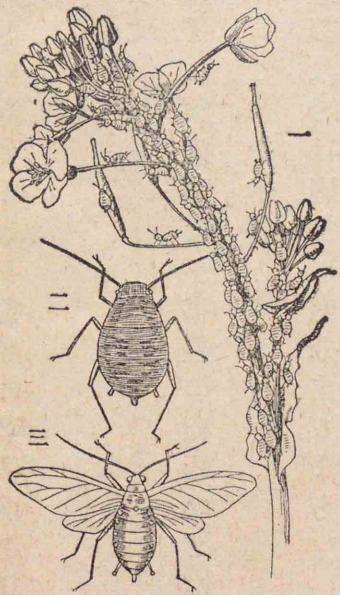
① 蚜蟲は春夏の候に無翅の雌を胎生し、繁殖の盛な時はよく一日に十數匹を胎生する。養分が缺乏すれば有翅のものを生じて他處に移轉する。秋末になれば有翅の雌雄を生じ、有性生殖をなして卵を産み、卵態で越冬する。

主なる害蟲

- (一) 冗枝を剪除して、日光及び空氣の透通をよくすること。
- (二) 田圃の排水と灌漑とに注意すること。
- (三) 病害に對しては免疫性を有する品種を採擇すること。

蚜蟲(アブラムシ) 蚜蟲は蔬菜・草花または一般樹木の心葉部など柔軟多汁な部分の養分を吸収し、梅雨の頃最もよく繁殖する。その驅除法は次のやうである。

- (一) 繁殖が速かであるから、甚だしく繁殖しない中に驅除すること。
- (二) 蟻は蚜蟲を他に輸送して傳播させるから、これを防ぐこと。

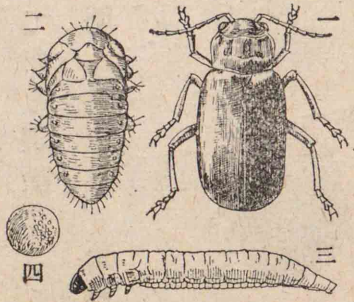


態狀たし生寄の蟲蚜に菜油 (一)
(翅有) 蟲雌 (三) (翅無) 蟲雌 (二)

(三) 石油・乳劑の五〇倍液または石鹼水・除蟲菊製劑などを噴霧器で撒布すること。

瓜守(ウリベ) 瓜守は成蟲も幼蟲も共に瓜類の幼苗に甚だしく害を加へ、而もその驅除が困難である。その驅除法は次のやうである。

- (一) 瓜類の苗を寒冷紗で覆をすること。
- (二) 早朝胡瓜畑に行つて成蟲を捕殺すること。
- (三) 瓜類の苗の成育の悪いものは、その根を檢して幼蟲を捕殺すること。
- (四) 除蟲菊・粉木灰などを撒布すること。

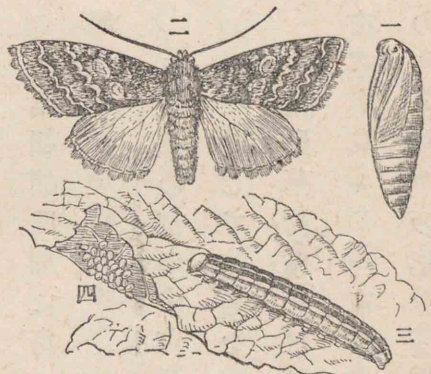


瓜 守
(一) 成蟲 (二) 蛹
(三) 幼蟲 (四) 卵

夜盜蟲(ヨタウムシ) 夜盜蟲は甘藍・菘類を始め、大根・蕪菁・豌豆・茄子その他の蔬菜の葉を食害する。その幼蟲は體の長さが約四cmに達し、

① 年一回發生し、五月頃までに産卵を終へ、八月中旬頃までに羽化し、成蟲のまゝ暖所の腐木・樹皮・雜草などの間で越冬し、五月頃から出て葫蘆科作物を害する。

② 年二回發生し、第一回の成蟲は五月中旬頃、第二回の成蟲は九月下旬頃に出現する。蛹態で越冬する。

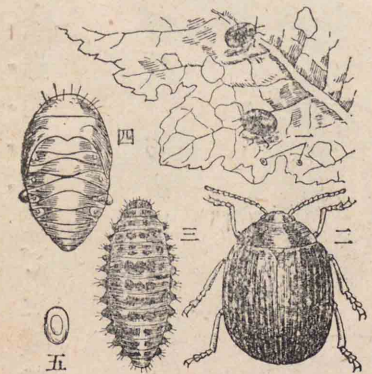


夜盜蟲 (二) 成蟲 (三) 幼蟲 (四) 卵

三齡頃までは青色を帯び、葉の上にあつて葉を害するが、三齡以後は土中に入つて褐色に變じ、夜間だけ出て葉を害する。その驅除法は次のやうである。
(一) 葉裏を検して卵を驅除すること。
(二) 被害地の周圍に溝を掘り、幼蟲を陥れて殺すこと。

1) 年二回發生し、第一回の成蟲は六・七月頃、第二回は十月頃出る。成蟲のまま土中に入つて越冬する。十字科植物を害する。

(三) 成蟲は燈火または糖蜜誘殺法によつてこれを殺すこと。
(四) 幼蟲が孵化した時、砒酸鉛除蟲菊・石鹼水などを撒布すること。
サルハムシ サルハムシの幼蟲は、黒色で海鼠のやうな形をなし、大根菘類



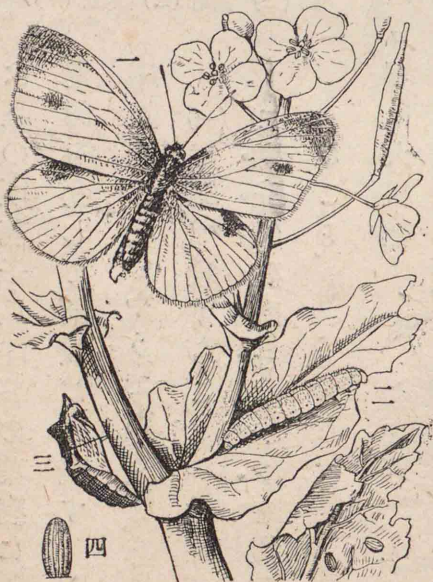
シムハルサ (一) 大根の卵 (二) 成蟲 (三) 幼蟲 (四) 蛹 (五) 卵

の葉を食害する。その驅除法は次のやうである。

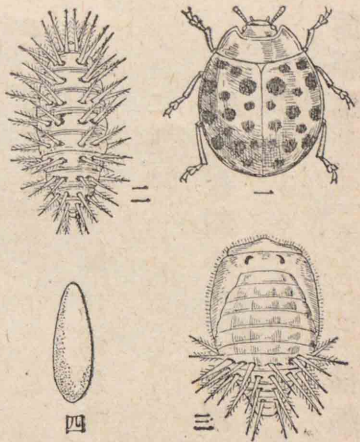
(一) 幼蟲を捕殺すること。
(二) 除蟲菊・石鹼合劑及び除蟲菊加用石油乳劑の三〇倍液を早朝噴霧器で撒布すること。
モンシロテフ モンシロテフの幼蟲は、菜の青蟲といひ、緑色で短毛を生じ、約四cmにも達する。その驅除法は次のやうである。

2) 本種に類似してある害蟲には、大二十八星瓢蟲がある。二十八星瓢蟲は關東以西に、大二十八星瓢蟲は關東以東に多く發生する。年二回發生し、成蟲態で越冬する。成蟲は五月頃出て、茄子・瓜・畦薯の葉裏に四・五〇粒づつ集めて産卵する。成蟲も幼蟲も共に害をなす。

(一) 成蟲は捕蟲網で捕殺すること。
(二) 幼蟲及び蛹は捕殺すること。
(三) 石油乳劑の二〇倍液を撒布すること。
偽瓢蟲 (テンタウムシダマシ) 偽瓢蟲



フテロシンモ (一) 成蟲 (二) 幼蟲 (三) 蛹 (四) 卵



シマダシムウタムテ
 成蟲(一) 幼蟲(二) 蛹(三) 卵(四)

は夏の頃茄子・瓜哇薯の葉裏につき、葉肉を食して葉脈だけ残す。その驅除法は次のやうである。

- (一) 毎朝捕殺すること。
- (二) 砒酸・鉛・硫酸・ニコチン・を撒布すること。

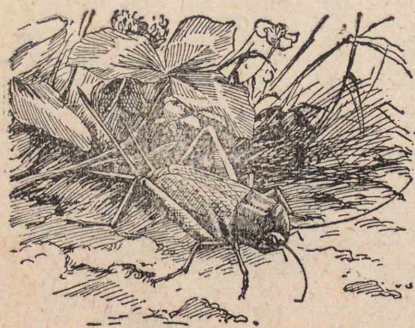
年一回發生し、成蟲は九月十月頃堤防・畦畔などの雑草の中、塵芥の下の土中などに産卵する。卵は多く年内に孵化し、幼蟲態で越冬するが、寒地では卵態で越冬することがある。

主なる病害

エンマコホロギ エンマコホロギは、大根蕪菁・菘類などを害する。これを驅除するには所々に穴を掘り、その中に胡瓜・茄子などを入れ、これを麥稈で覆つて置いて多數集合させ、火を放つて燒殺する。

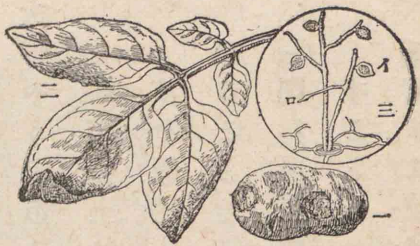
主なる病害

瓜哇薯の疫病 本病は瓜哇薯の病害の中



ギロホコマンエ

白色の微は病原菌の擔子梗である。この擔子梗は樹枝状に分岐し、これに卵圓形の胞子を着生する。胞子が成熟して適處に落ち、ちて濕氣を得れば分裂して游走子を生じ、次に發芽管を生じ、作物の組織内に入り、再び本病を發生する。



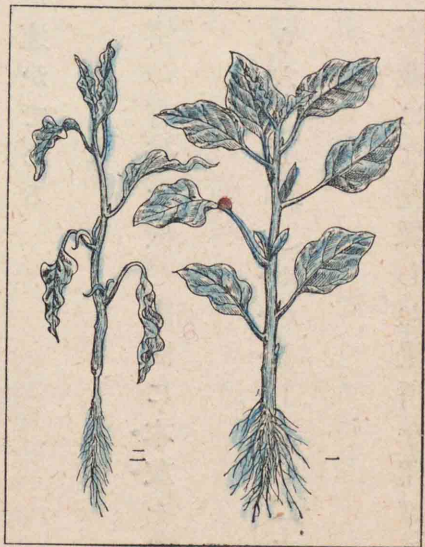
病疫の薯哇瓜
 薯害被(一) 葉害被(二) 害被(三) 大擴の部(四) 子胞(一) 梗子擔(二)

も恐るべきもので、主として莖葉及び薯に發生する。この病は秋季に最も多く蔓延する。これが葉に發生すれば、黒褐色の斑點を生じて、その裏面に白色の微を生じ、薯に發生すれば、少しく凹んだ褐色の斑點を生ずる。多濕の氣候には發生し易く、殊に雨天が續けばその蔓延が速かである。

その豫防法は次のやうである。

- (一) 種薯は二つ切りとなして被害の有無を檢し、断面に木灰を附けて栽植すること。
- (二) 發病前、即ち蕾の生ずる頃から六〇・一(式)ポルドー液を二・三回撒布すること。
- (三) 收穫は晴天の日を選び、薯の貯藏には乾燥した場所を選ぶこと。

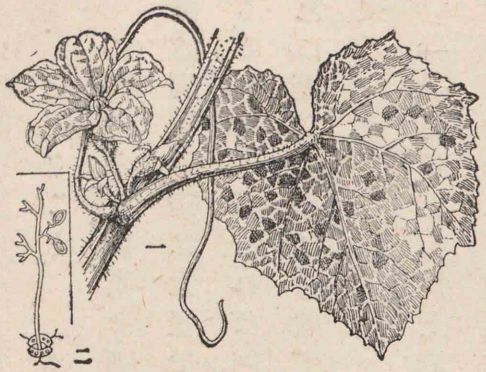
茄子の立枯病 茄子が本病に罹ると、地際の部分が腐敗して次第に細くなり、風のために折れ、時には枯死することがある。本病は苗床に於ても本圃に於ても發生する。その豫防法は次のやうである。



苗の子茄な全健 (一)
苗の子茄たつ罹に病枯立 (二)

- (一) 苗床の土は毎年新しいもので、且つ消毒したものを用ひること。
- (二) 苗を假植する場合には、木灰・消石灰・硫黄華などを床面に撒布すること。
- (三) 肥料は三要素の配合に注意し、苗床の床上には草木灰を十分施すこと。
- (四) 苗には硫化加里液を、定植後はボルドー液を撒布すること。

病原菌は葉の裏面の氣孔から樹枝狀の擔子梗を抽出し、その先端に乳頭突起を有する卵圓形の胞子を生ずる。この胞子によつて本病を起す。



病菌露の瓜胡 (一)
大擴の菌病菌露 (二) 葉害被の病菌露

- (五) 茄子科の植物を連作しないこと。 (普通五、六年間)
 - (六) 被害莖は拔取つて焼却すること。
- 胡瓜の露菌病 本病は瓜類の病害の中最も恐るべきもので、胡瓜の外、越瓜・西瓜・甜瓜などにも發生する。

瓜類が本病に罹ると、先づ下葉の葉脈の間が淡黄褐色に變じ、遂に全葉が黄褐色に變じて枯死する。通常下葉から始つて上葉に及び著しく樹命を短縮して收穫を減少させる。その豫防法は次の通りである。

- (一) 本病の發生しない時から、一週間内外を隔てて(出來れば三、四日毎に)六〇・一(式三斗)ボルドー液を數回撒布すること。

(二) 堆肥・厩肥のやうな有機質肥料を畦間に敷きつめて、根際の乾燥を防ぐこと。

(三) 肥料の三要素を適量に施して健全に生育させること。

腐敗病 本病は大根では根に発生し、外觀は異状を呈しないけれども、これを切斷すれば内部は黒色に變じてゐる。甘藍では葉脈が黒色に變じ次第に腐敗する。燕菁などにも発生する。その豫防法は次のやうである。

病原菌は青蟲・夜盜蟲などの食害した傷口から侵入するのであらうといはれてゐる。

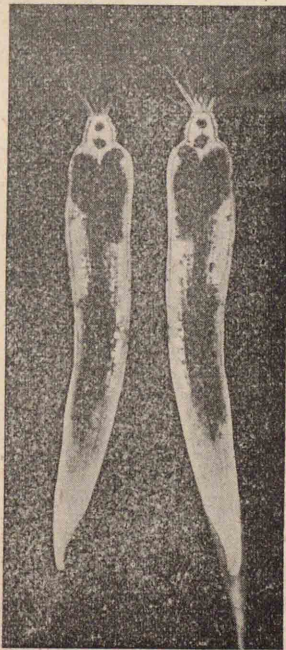
(一) 一度発生した土地

には一二年間連作しないこと。

(二) 濕地に發病し易い

から、排水のよい地に栽培すること。

(三) 葉に六〇一^(三)ポルドー液を撒布すること。



腐敗病に罹りし大根の縦斷面

忌地病 本病は豇類や茄子類に多く発生し、窒素肥料が多過ぎたり、連作したりすれば起る。その原因は明かでないけれども、本病に罹れば萎れて枯れる。豇類では窒素肥料を少くし、連作を避けることが必要である。また一〇aにつき木灰七五乃至一一二gを混入すれば豫防することが出来る。

◎園藝作業 十月

一、蔬菜の手入

(イ) 蔬菜の播種 甘藍、菠薐草、小松菜、龜戸大根、二年子大根などは九月から本月にかけて播種することが出来る。また豌豆、蠶豆は本月が播種の適期である。

(ロ) 甘藍の假植 九月冷床に播種した甘藍類は、本葉が二、三枚発生した頃に、方約一〇cmに苗を一本づつ假植する。

(ハ) 萵苣の定植 本葉が四、五枚発生した頃、方約二〇cmに苗を一本づつ定植して結球させる。密播の場合には、甘藍のやうに一回假植した後定植することもある。

(ニ) 秋大根、結球白菜の手入 八月播種した秋大根、結球白菜は、九月中に間引が終つて既に一本立となつてゐるから、その株間に補肥を十分施し、且つ根元に土寄をなし、また害虫を驅除する。

(ホ) 苾類の手入 九月初旬頃までに間引を終へ、株間を

三〇cm内外とし、補肥を十分施し、害虫を驅除する。

(ヘ) 葱の土寄施肥 葱に土寄施肥をして白色部を多くする。

二、花卉の手入

(イ) 苗の假植 播床で發芽したものを苗床に假植する。

(ロ) 菊の手入 開花し初めるから手入を怠らないやうにする。

第七章 庭園樹木の手入

庭園樹木の手入

庭園樹木

學校園、公園または家庭園に於て、草花と共に風致を添へるものは庭園樹木である。次にその主なるものを挙げよう。

躑躅

躑躅は花を賞美するもので、品種に富み、花の色も多種多様である。躑躅を繁殖させるには、挿木の法によるのが普通であつて、その時期は梅雨中がよい。

躑躅の根は羊毛のやうに細いので、移植に耐へる力が強く、刈込に

接木・株分・播種などの法もある。播種は新品種の育成または砧木の養成の場合に用ひられる。

もよく耐へる。植込は落花後または春秋に於てするがよい。



躑躅

躑躅は花の形は小さいけれども、花を密生し、色彩の變化に富んでゐて、今日最も多く栽培される。開花期は四・五月頃である。皐月は開花期が恰も舊曆五月頃であるので此の名がある。近來鉢植として

ベルギー・オランダなどから輸入する。元來本邦産の皐月のやうな躑躅を支那から輸入して改良したものである。

て盛に愛翫される。
西洋躑躅は歐洲から輸入した躑躅の俗稱であつて、温室栽培に適する。

主なる庭園樹木

名 稱	開 花 期	性 状	色 彩	繁 殖 法	そ の 他
櫻	四月	喬木落葉	紅・白・黃	接木(春)	庭園
梅	二・三月	喬木落葉	白・紅	接木(春)	庭園
牡丹	四月	灌木落葉	各色	接木(春)	鉢・花壇
薔薇	春秋	灌木落葉	各色	挿木(春夏)・接木(春夏)	切花・鉢植・花壇
柘榴	六月	灌木落葉	赤	株分(春)・接木(春)	鉢・庭園
山茶花	冬季	半喬木常綠	白・赤	接木(春)・挿木(春)	庭園
紫陽花	六・七月	灌木落葉	紫・白・桃	株分・挿木(春)	庭園
海桐	二・三月	灌木落葉	紅果	播種(秋)・接木(春)	庭園
山吹	五月	灌木落葉	黃	株分(春)	庭園・切花

木	南	木
犀	天	蘭
十月	十二月	三四月
半喬木常緑	灌木常緑	喬木落葉
黄白	紅白	白紫
接木挿木(春)	接木(春)播種(春)	接木(春)
庭園	庭園切花	庭園

プラタヌス

プラタヌス (すじかけの木)

プラタヌスは今日では廣く街路樹として植ゑられる。性質が最も強健で、成長が速かである。夏は大形の葉が茂るので日蔭用に最も適し、冬は落葉する。挿木によつて容易に繁殖させることが出来る。

プラタヌスの外、落葉樹には、梧桐、公孫樹、楓、百日紅、ポプラなどがあ

る。常緑潤葉の庭木には、青木、檜、金目、樟、榲、黄楊、柞、八角、金盤などがあ

る。がある。

ヒマラヤシダー

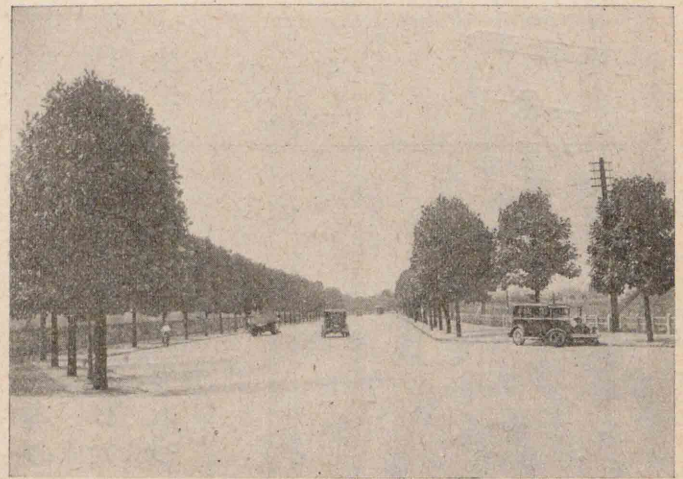
ヒマラヤシダーはプラタヌスと同様に廣く栽培さ

ヒマラヤシダー

庭園樹木の手入

庭園樹木の手入

庭園樹木を繁殖させ

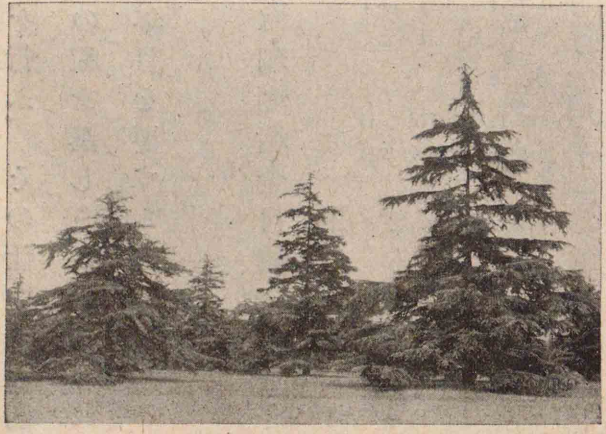


通木並のヌタラフ

には、高野、檜、手柏、這柏、心檜、葉樅、など

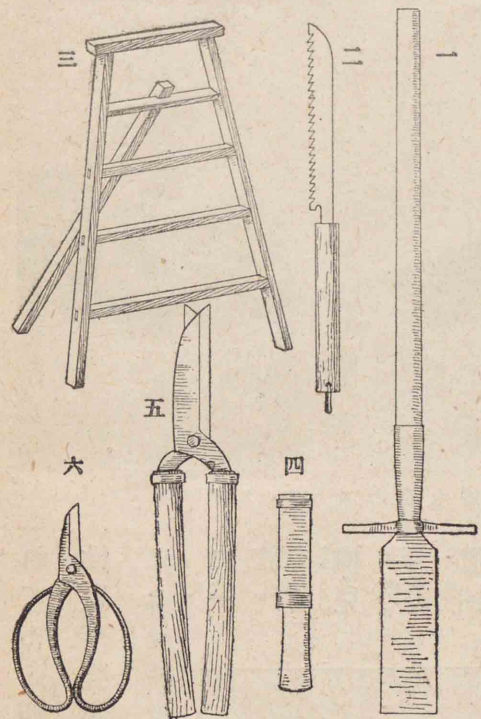
れてある。西洋庭園木の一つである。性質が強健で、成長も速かである。

ヒマラヤシダーの外、常緑針葉樹



ダーシヤラマヒ

るには種類によつて實生挿木接木などを行ふ。その仕立方も樹木の性質と庭園全體の眺とによつて種々の趣を呈しさせるやうに考案創作するがよい。樹木の仕立には長年月を要するものが多いから、絶えず手入を怠つてはならぬ。



具用入手

(一) 剪根 (二) 鋸 (三) 立脚 (つたやき)
(四) 鑿割木 (五) 鉋 (六) 鉄込刈

用ひられるけれども、海岸地では檳榔樹の類を、日蔭地では柃櫨の類といふやうに、場所氣候風土などによつてそれぞれ適宜にす

べきである。一般に生育が早く下枝の出易いものを選ぶがよい。生垣の仕立方は、普通一m内外の苗を植付け、幹が眞直になるやうに支柱を興へ、初めの二三年間は特に肥料を多く施して成長を促す。普通二m内外に仕立てるのであるから、この高さに達するまでは幹心を止めず、専ら側枝の先端を摘んで枝葉の密生を圖るがよい。刈込は春一回または春秋二回行ふ。

◎園藝作業 十一月

一、蔬菜の手入

(イ) 大麥その他の播種 大麥を播種する。また播遅れた蠶豆小松菜は本月上旬中に必ず播種する。

(ロ) 蔬菜の霜除 小松菜・菠薐草・豌豆蠶豆など冬を越す蔬菜には、笹などで霜除をする。また甘藍・高苣などの苗床にも霜除をする。

(ハ) 葱苗の手入 笹を立て、粗穀などを撒布する。

(ニ) 里芋その他の貯蔵 里芋・甘藷・大根などを貯蔵する。

二、花卉の手入

(イ) 草花の霜除防寒 草花の苗床に霜除を施し、また温室や温床の中に移植して越冬させる。

(ロ) 秋植球根の植付 秋植球根の植付は本月上旬を以て最終とする。

(ハ) 秋播草花の假植 播床で發芽した秋播草花中には本月上旬に假植を行ふものもある。

第八章 農業細工物

藁細工

藁細工は我が國農家の副業の中最も主要なもので、その代表的なものは繩である。繩を編ふには多少の藁打をなす必要がある。藁打の目的は、

(一) 藁を柔軟にすること。

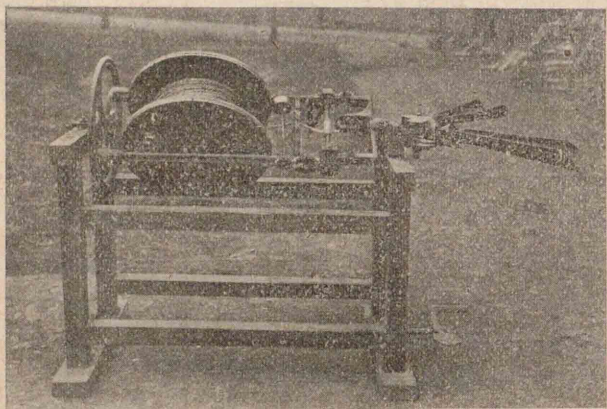
(二) 節袴のやうな繊弱部を排除すること。

と。

(三) 作業を便にすること。

(四) 加工品を強固にすること。

などである。藁打の方法としては片手杵打・連枷打・兩手杵打のやうに人力によ

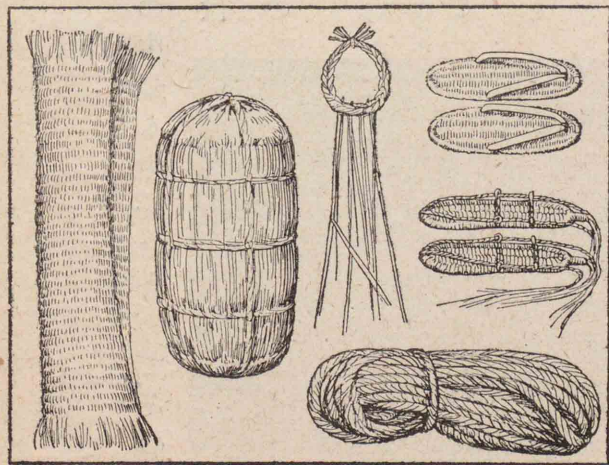


機 繩 製

約三百種ある。

るものと動力藁打機によるものとがある。繩を紬ふには手紬によるか又は製繩機を使用する。製繩機の種類は今日非常に多數に達し、各一長一短があるから、これを購入する際には、

- (一) 堅牢で耐久力のあるもの。
 - (二) 精巧で如何なる種類の繩でも製作することの出来るもの。
 - (三) 附屬品の完全なもの。
 - (四) 生産能率の大なるもの。
 - (五) 安價なもの。
- などを選擇すべきである。製繩機を使用すれば、手紬に比して三倍以上の能率を擧げることが出来る。



品製藁

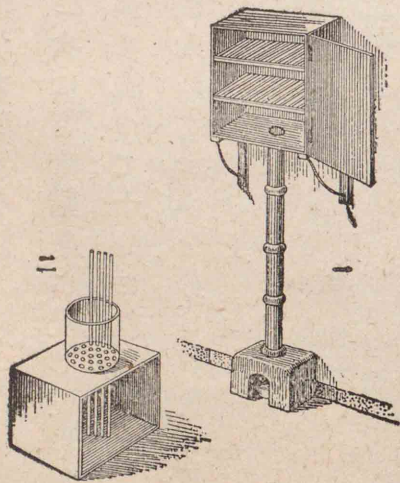
麥稈細工

繩の製品には、その用途によつて、稻架繩・大間繩・中間繩・大倉繩・土木繩など種々ある。藁細工には繩の外、草履・草鞋・蓆・正月の注連飾、その他多くの種類があるから、各地方に於てもそれ〴〵利用の途を講ずるがよい。

麥稈細工

麥稈細工は主として裸麥・大麥を原料とする。麥稈細工をするには次の方法による。

- (一) 穂頭が約五㎝淡黄色になつたなら、晴天の日に刈取つて十分陽乾し、種實を扱き落し、なほ數日間よく陽乾する。
- (二) その麥稈の第一節間を手で抜き取り、庖丁で穂先を切り揃へ、次に第二節を鋏で剪み取つて



箱晒 (一) 器別選 (二)

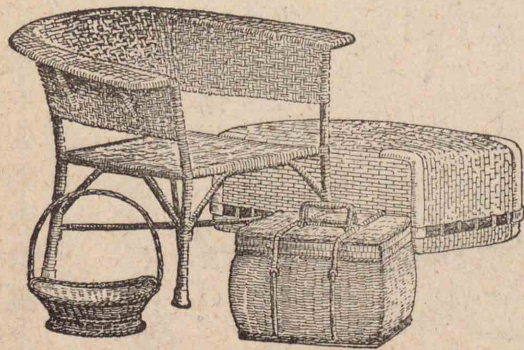
別々に束ね、共に陽乾し、筵類に包んで濕氣を防ぐ。
 (三)その麥稈を暫時アンモニア液に、次に暫時醋酸に浸し、更に晒箱に入れて硫黄で燻焼漂白し、清水で洗つて十分に乾かす。
 (四)その麥稈をブリキ製の選別器に入れて、大小を分け、日光に透して見てその良否を定める。

(五)その麥稈は、全稈が透明に近く、乳白色で固有の光澤と弾力とを有し、乾燥が十分で質の柔かいのを良品とし、直ちに裂いて眞田に製する。劣等品は通常染色して用ひる。

夏季に用ひる麥稈帽子の麥稈はかうして出来るのである。

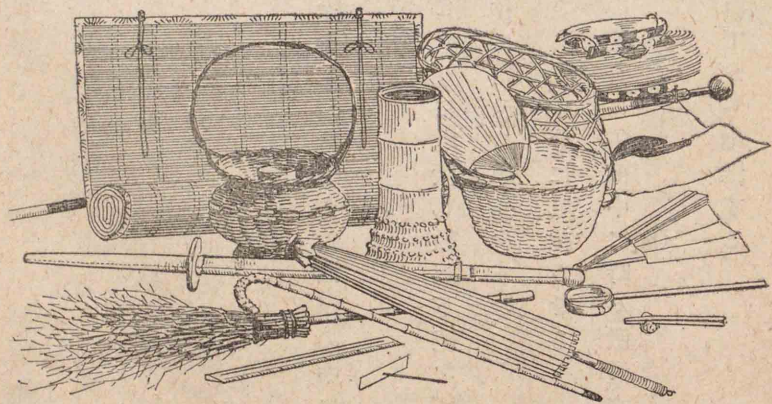
その他
細工物

その他の細工物



柳製品

一、杞柳の加工 杞柳は柳行李を始め、バスケツト、夏椅子、花籠などに製造される。
 二、竹細工 竹製品には實用向のものに、籠類、笊類、傘骨、蠶箔、團扇骨、箸、竹箒、提灯骨、玩具類、竹尺、竹刀、ステッキ、柄杓、衣紋竹、旗竿などがある。そして美術工藝的のものは、最近農民美術として次第に發達しつつある。



竹製品

◎園藝作業 十二月

一、蔬菜の手入

(イ) 促成栽培軟化

(ロ) 收穫 菠薐大根葱などを收穫する。

二、花卉の手入

(イ) 菊の株分 冬至頃に菊の株分を行ひ、霜除をした冷床または箱の中に植付ける。

(ロ) 培養土の調製 落葉または藁などを土と交互に堆積し、數回下肥などをかけて腐熟させ、菊朝顔その他鉢物の植付に用ひる準備をする。

(ハ) 花壇の耕起 花壇を掘り起して寒氣にさらし、十分に風化させる。

(ニ) 苗及び鉢物の手入 秋播草花及び鉢植の花卉に午前中に時々微溫水を少量づつ灌水する。

(ホ) 春咲球根の施肥 芽が約三㎝地上に現れてから施肥する。

蔬菜の高等栽培法

第九章 蔬菜の高等栽培法

高等栽培

高等栽培

人の嗜好の上進は時ならぬ珍菜・珍果を欲求して已まない。今や栽培技術の進歩は太陽の力だけに頼らず、人工熱を供給して此等の野菜果實を栽培して、右の欲求を満足させることが出来るやうになつた。これが即ち高等栽培である。高等栽培は普通栽培に對するものであつて、普通栽培では栽培することの出来ない時期または地方に於て、特別の設備によつて作物を作り出す仕事である。

促成栽培

促成栽培上重要なことは、溫度と濕氣と日光との三つである。

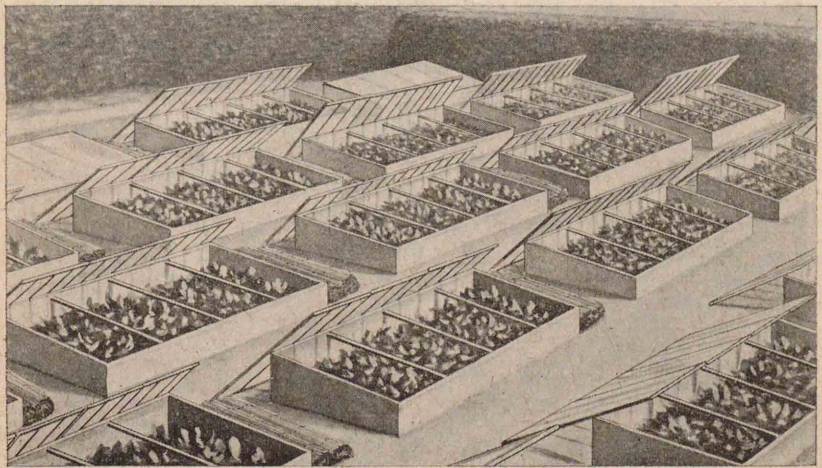
その中でも嚴寒中に於ける溫熱の補給は最も困難である。促成用の人工熱には炭火・溫湯・蒸氣・電熱など種々あるが、古くから廣く用ひられてゐるのは馬糞のやうな有機物の醱酵熱である。今日多く用ひられるフレームは、前に述べたやうに、(第一章「苗」参照)紡績屑・厩肥

藁稈・塵埃・落葉などを堆積し、適當な濕氣を與へて醗酵させて熱の發生を促す設備である。

フレームの設備は極めて簡單で、熱源もまた安價であるが、熱が永續することは困難である。従つて短期間に成熟するか又は低溫で育つ作物を栽培するのに適する。

促成栽培に用ひる蔬菜はなるべく早生且つ矮生で、よく促成の目的に適し、狭い場所で栽培することの出来るものがよい。

播種から收穫までの日數は、菜豆は



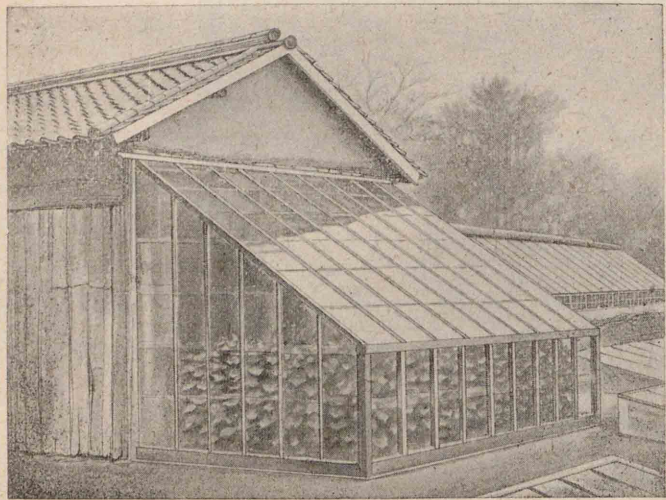
フレーム内の蔬菜の促成栽培

七十日、胡瓜は八十日、茄子は百二十日ぐらゐであるから、收穫期から逆に計算して播種の時期を定めるがよい。

フレームで促成すべきものは、胡瓜、茄子の外、土當歸、苜蓿、トマト、アスパラガスなどの蔬菜類や、簡單な促成に利用することの出来る花卉である。

フレームよりも大規模で、自由に溫度を調節することの出来るものは、溫室である。

溫室は硝子張の室であつて、普通ポイラーで石炭を焚き、湯を沸かし、蒸氣を發生させ、これを鐵管の中



溫室の設置して利用する南面の置物

に通じて床と室とを温め、所要の温度を保たせる装置である。蒸氣の代りに電熱を用ひることも出来る。

温室で普通に栽培される作物は、茄子・トマト・胡瓜・西瓜・マスクメロ

ンなどの蔬菜、薔薇・百合・カーネーション・スキートピー・シクラメン・シネラリア・チューリップ・ヒヤシンス・フリジアなどの花卉及び蘭類のやうな観葉植物である。

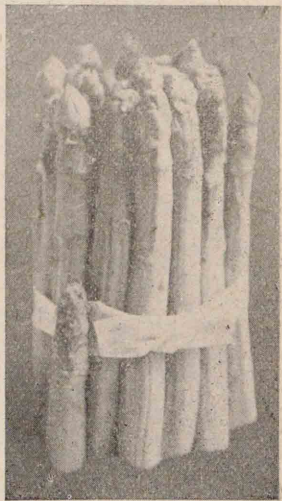
軟白蔬菜



シノメクスマ

軟白蔬菜 軟白蔬菜とは日光を遮つて白く軟かく栽培した蔬菜をいふ。土當歸・アスパラガスの如きは、早春發芽に先立ち、株の上に土を覆つて新芽を土中に養ひ、また葱の如きは伸長す

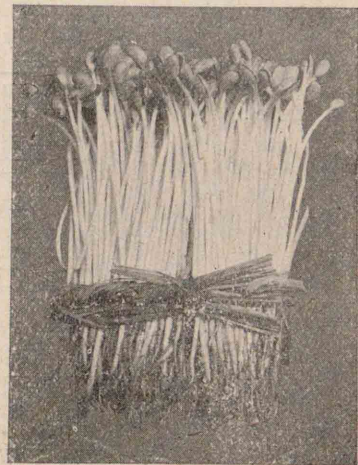
促成軟白



スガラパスア

るに 伴ひ 屢土 せ寄

軟白部を多くし、甘藍・白菜・玉菖菖の如

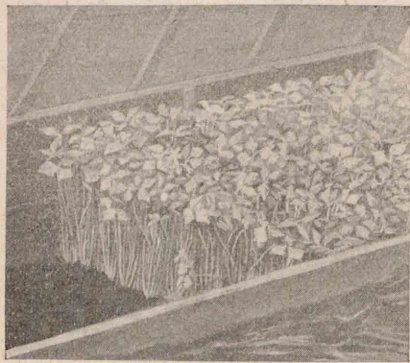


白軟成促の豆

きは球根を外葉で包んで軟白を助ける。此等は何れも軟白蔬菜である。

促成軟白

土當歸・野蜀葵・生姜・アスパラガスを、軟化窖



化軟の葵蜀野



白軟成促の豆

◎園藝作業 一月

一、蔬菜の手入

(イ) 苗床の準備 温床に茄子・胡瓜を播種する準備をする。

(ロ) 霜除 霜除の見廻りをする。

二、花卉の手入

(イ) 苗及び鉢物の手入 十二月に準じて行ふ。

(ロ) 培養土の調製 十二月堆積したものに時々下肥などを撒布する。

(ハ) 苗床の準備 春播用苗床の準備をする。

農業氣象とその
観測

農業と氣象
との關係

第十章 農業氣象とその観測

農業と氣象との關係 氣象が人類生活に及ぼす影響は實に大であつて、衛生・航空・航海・農業などはこれと最も密接な關係を有する。殊に大地の上、大氣の中で營む農業は、到底自然の力を無視して行ふこと

は出来ない。農業上に於ける氣象の研究は土壤の研究と共に極めて重要な事柄である。

氣象には晴曇寒暖乾濕風雨霜雪などの諸現象がある。何れも作物の栽培・家畜の飼養に多少の關係を有し、或時は我等の味方となり、或時は我等の勁敵となる。古來豊凶の分岐を一に天候に歸するを見ても、氣象が如何に農業に多大の關係を有するかが分るであらう。次に主なる氣象について農業との關係及びその観測法を述べよう。

日照

日照 日光の照射を日照といひ、作物の生育上に大なる關係がある。植物は日光によつて同化作用を營むことが出来るので、日照がよければ、組織が剛くなつて倒伏せず、また收量が増加し、品質が向上する。苗床・苗代または鶏舎・畜舎などを特に日當のよい所に設けるのは、一つは温度の關係にもよるが、また日照の關係によるのである。

一日の太陽の照射時間を観測するには日照計を用ひる。今日氣

動物の健康上には血液の循環をよくし、食物の消化を容易にし、病菌を撲滅する。

日光の寫眞作用を利用したものである。
硝子球がレンズの作用をなし、焦點を日照紙上に結ばせて焼痕を残すものである。
温度

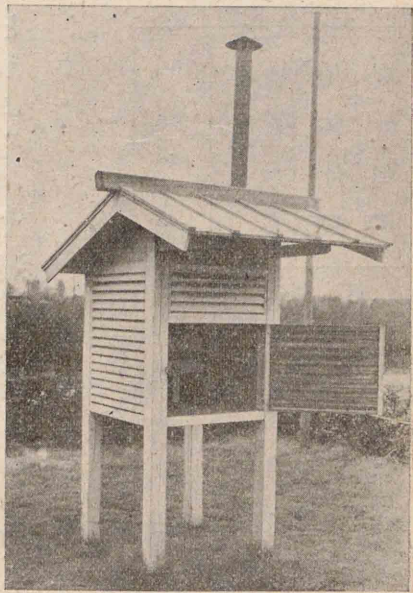
象観測に用ひられる日照計には、
●ル・ダン式と●カンペル式との二種がある。

温度 空氣の温度を氣温、土地の温度を地温、水の温度を水温といふのは、身體の温度を體温といふのと同じである。

體温の給源が食物であるやうに、氣温・地温・水温の給源は實に太陽熱である。

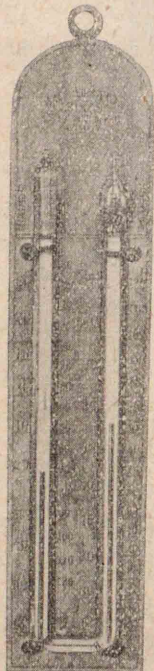
地球は自轉によつて晝夜の別を生じ、太陽熱を受ける状態を異にするので、一日中に温度の變化を來す。また公轉によつて四季の別を生じ、一年中に温度の變化を來す。

氣温の變化は、一日中に於ては、最高は午後二時頃、最低は日出前で

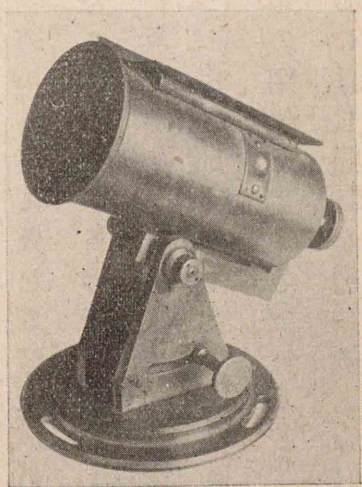


ある。また一年中に於ける最高は七八月頃、最低は一二月頃である。
我が國の氣候は寒から暖に移るのは徐々であるが、暖から寒に入るのは急激である。

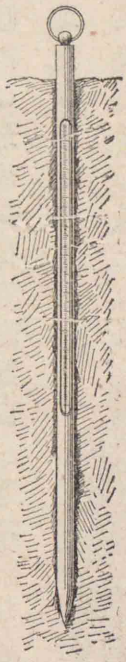
氣温を測定するには、外界の影響を避けるために百葉箱と稱する通風自在の箱の中に寒暖計を装置する。氣象の観測に使用される寒暖計は、最高・最低・寒暖計・自記・寒暖計などである。
地温は土地の上層の温度である。表土の地温は略々氣温と同じいけ



計暖寒低最高最



計照日式ンダル●ジ



地温寒暖計

れども、地下一mの深さに於ては、一年中の最高は九月頃、最低は二月頃である。上層の地温は土壤の種類、地形、乾濕の程度によつて著しく

相違がある。地温を知るには地温寒暖計を用ひる。

温度と農業との關係は極めて密接であつて、作物は發芽、生育、成熟ともに凡べて適當な温度を必要とし、高温、低温の何れに過ぎてもよくない。

種子の發芽と温度との關係

作物名	最低温度	最適温度	最高温度
大麥	三〇—四五	二〇〇—二八〇	二八〇—三〇〇
小麥	三〇 ^度 —四五 ^度	二五〇 ^度 —二八七 ^度	三〇〇 ^度 —三二二 ^度

玉蜀黍	八〇—九七	三二〇—三五〇	四〇〇—四四〇
菜豆	一〇〇	三二二〇	三七〇
稻	一〇〇—一二〇	三一〇	三八〇
胡瓜	一二〇	三五〇	四〇〇
豌豆	一〇—二〇	三〇〇	三五〇
油菜	二〇—三〇		四〇〇
蠶豆	三〇—四〇	二五〇	三〇〇
胡蘿蔔	四〇—五〇	二五〇	三〇〇
南瓜	一二〇—一三七	三三五—三三七	四〇〇—四六一

温度が農業上極めて必要であることは前に述べた通りであるが、栽培上の手加減によつて多少これを調節することが出来る。即ち、(一)南向の傾斜地は最も暖かいから、高温を要する作物の栽培また

は早期栽培に適する。更に北側に牆壁しょうへきを作つて寒風を遮れば一層暖かになる。

(二) 平坦な圃場たんぱんでも、作條の切り方を東西にし、その南側を利用すれば温度を増すことが出来る。麥作の南側に蔬菜を植付けるのはこの例である。

- (三) 圃地に排水を行へば地温を高めて作物の生育をよくする。
- (四) 高温の水は作物の成長を促し、また寒害を防ぐ。
- (五) 日中十分に日光を受けさせ、夜間そこに覆蓋ふくがいを施して地面の放熱を防げば、温暖を保つことが出来る。

湿度

湿度一〇〇は空氣中の水蒸氣の飽和を示す。

湿度 空氣中に含まれてゐる水蒸氣即ち濕氣が飽和ばうわするのに要する量は、温度の昇るに随つて増加する。乾いた空氣といひ、濕つた空氣といふのは、空氣中の水蒸氣が飽和に近いか否かを指すのであつて、この關係を表すのが湿度で、零から百までの數字で示される。

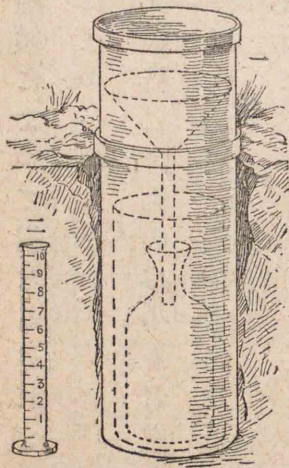
湿度を計るには乾濕計を用ひる。通常湿度六〇附近が農業上最も適當である。

湿度の高低もまた作物の栽培及び養蠶養畜に密接な關係がある。我が國の土地が稻桑などの栽培には適するけれども、葡萄のやうな果樹の栽培には適せず、また山羊羊などの養畜が發達しない一つの理由は、湿度の關係にもよるのである。

雨と風

雨と風 雨は空氣中の水蒸氣の變形であり、風は空氣そのものの移動である。雨滴の大小、降雨の強弱、雨量の多少、雨期の長短などは作物の生育に密接な關係がある。

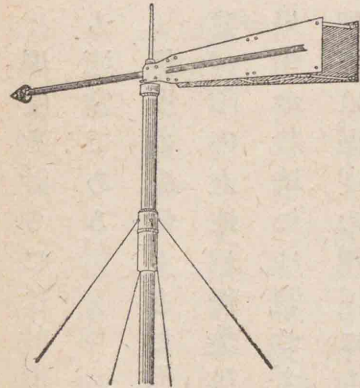
我が國の雨量は一箇年平均一五〇〇mm(一a%につ)に達し、世界中で多雨の國土に屬する。降水量を知るには雨量計を用ひる。



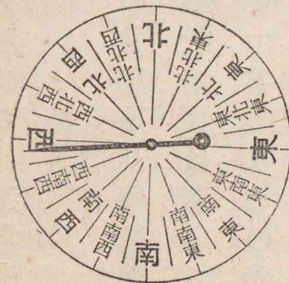
計量雨
たし置装を計量雨 (一)
器量計 (二) ろこと

降雨と作物との關係は、作物の種類によつて異なるけれども、概して成長期には十分であり、成熟期には少いのがよい。凡べて作物の播種植付などは、天候特に降雨の多少を考慮して行はなければならぬ。例へば、平作法、畦作法、灌漑法、排水法などは、その土地の雨量によつて定むべきである。

風は暴風の如きは有害なことは言ふまでもないが、軟風和風などは却つて作物や家畜のために有効であり、風通しがよければ水分の蒸發を進めて、作物を健全にするばかりでなく、病蟲害の豫防にも極めて有利である。風の観測には風の吹いて來る方向即ち

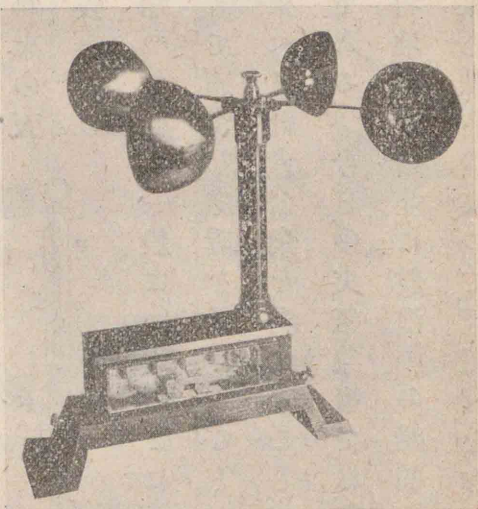


風信器



風信器用六十度劃度板

蒸發を進めて、作物を健全にするばかりでなく、病蟲害の豫防にも極めて有利である。風の観測には風の吹いて來る方向即ち

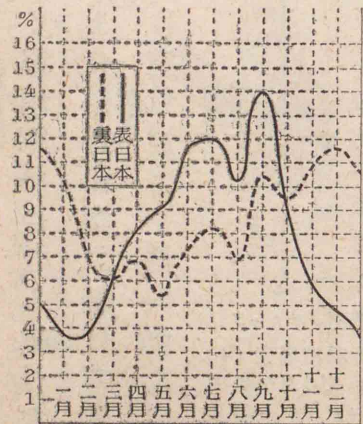


ピロソン風力計

風向を知るものと、風の速度即ち風速を知るものがある。風向を観測するには風信器を用ひ、風速を観測するには風力計を用ひる。風力計にはロビンソン風力計が最も廣く用ひられる。

素の

組合せは各地にその土地特有の氣候を作る。氣候の如何によつて作物の種類を選択するのは勿論品種についても十分考慮しなければならぬ。例へば稲についていへば、秋日の長い

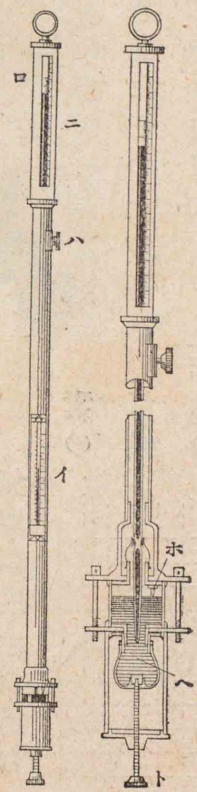


日本表日本に於ける雨量變化圖

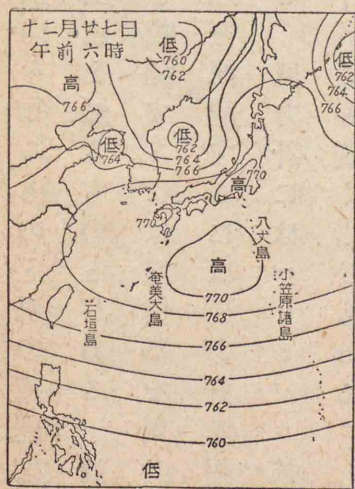
表日本には晩稻が適するけれども、秋早く濕潤寒冷になる裏日本では早稻を栽培することが必要である。また長野・山梨二縣に葡萄がよく成熟し、且つ養蠶が廣く行はれるのは、空氣がよく乾燥するからである。

天氣豫報
將來の天候を豫め

知つて社會一般に知らせ、これに對して適當な處置をさせることが出来るれば、社會公衆を利することが大である。今日、中央氣象臺では、毎日各地測候所並に航海中の船舶から來る報告によつて天氣圖を作製し



計雨晴型シナルオフ
(口) 計暖寒屬附 (イ) 遊 (ハ) 窓る見を盛度尺遊 (ニ) ゴネ用尺水 (ヘ) 針の製角 (ホ) ゴネ (ト) 槽銀



圖氣天

地方天氣豫報信號標

雪力雨々時曇	雨々時曇	曇々時晴	晴	風ノ東北	風ノ北
霧	雪々時曇	雨々時晴	曇	風ノ西北	風ノ東
又ルナク暑 ルナク暖ハ	雪カ雨	雪々時晴	雨	風ノ東南	風ノ南
ハ又ルナク寒 ルナク涼	雪力雨々時晴	晴々時曇	雪	風ノ西南	風ノ西

地方暴風警報信號標	風雪ガ強クナル	風雨ガ強クナル	風ガ強クナル		
地方氣象特報信號標	雪	雨	曇	晴	晴
晝間信號 夜間信號	雪後	雨後	曇後	晴後	晴
地方天氣豫報夜間信號標(燈)	雪	雨	曇	晴	晴
	雪後	雨後	曇後	晴後	晴
	雪	雨	曇	晴	晴
	雪後	雨後	曇後	晴後	晴
	雪	雨	曇	晴	晴

て、天氣の變化を豫報する。

天氣豫報は各府縣の測候所から日々各官省に告知され、そこから更に一般に公示される。ラデオによる天氣豫報は最も迅速である。天氣圖に用ひる諸記號は次のやうである。

- 快晴
- ⊙ 晴
- 曇
- 雨
- ⊗ 雪
- ⊙ 霧
- ◐ 雷雨
- ／ 等壓線
- - - 等温線
- └ 軟風
- └ 和風
- ⚡ 疾風
- ⚡ 强風
- ⚡ 烈風
- ⚡ 颶風

◎園藝作業 二月

一、蔬菜の手入

- (イ) 播種 胡瓜、茄子などを先月用意しておいた苗床に播く。
- (ロ) 施肥 苺、甘藍、玉葱などに施肥する。

二、花卉の手入

- (イ) 苗床及び鉢物の手入 前月に引續いて行ふ。
- (ロ) 花壇 秋植球根に補肥を施し、花壇の整地をする。

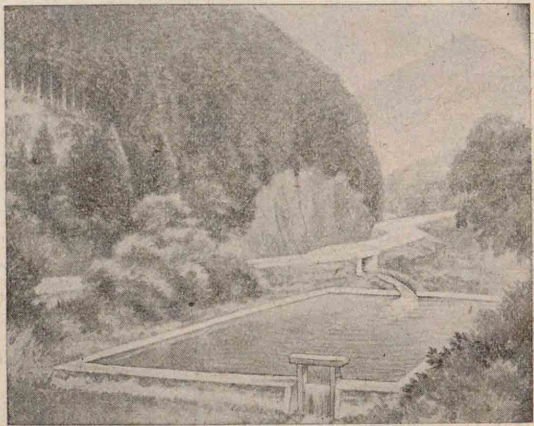
災害の防止法

第十一章 災害の防止法

旱害

旱害 雨量の多い我が國に於ても、年により、また作物の種類によつては、旱魃かんぱつの害を被る場合がないでもない。旱魃の害を防ぐには、栽培上、

- (一) 旱害に對する抵抗力の強い品種を選ぶこと。
 - (二) 稍深植とすること。
 - (三) 作條の底に植ゑること。
 - (四) 旱魃の際は表土を淺く耕すこと。
 - (五) 敷藁または日覆をする事。
 - (六) 雑草を繁茂させないこと。
 - (七) 畑地にも出来るなら灌漑すること。
 - (八) 毎日適度に灌水すること。
- なごである。なほ

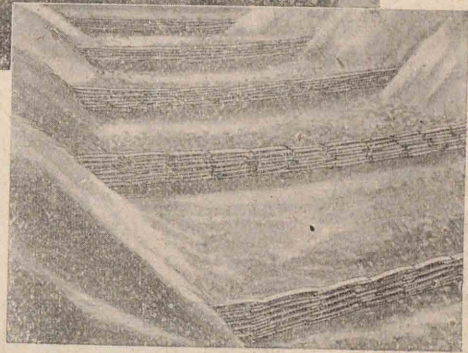
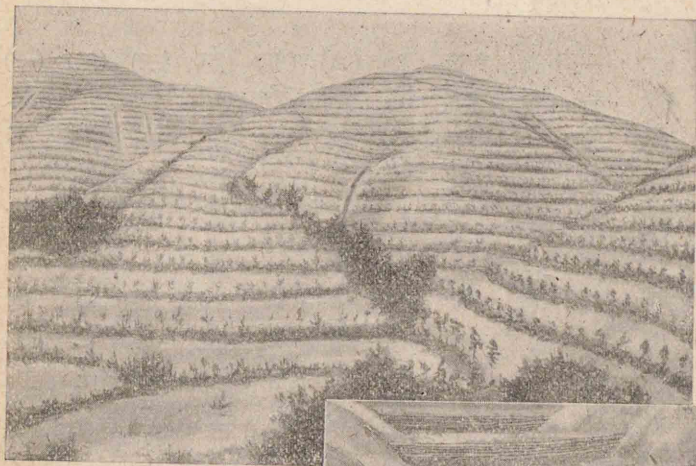


池水貯たし備設にめたぐ防を害旱

- (一) 貯水池を設けること。
 - (二) 森林増殖により水源を涵養して水量の増加を圖ること。
 - (三) 電力などの動力を用ひて水を汲み上げること。
- なご、積極的施設をなす必要のある場合も少くない。

水害

(上) 山地に於ける植林
(下) 砂防工事を施したところ



水害

農業上必要な水も、豪雨のため洪水となつて堤防を決潰するやうになれば、せつかく努力して耕作した美田良圃も忽ち荒廢地となることを免れぬ。洪水の害を防ぐには、

- (一) 水流を善導する設備をなすこと。
- (二) 砂防工事を施すこと。
- (三) 上流の山嶽地方に植林し、一時に多量の水が流出しないやうにすること。
- (四) 堤防放水路のやうな治水工事を完全

風害

にすること。
などが最も必要である。

風害

農家の最も恐れるものは暴風である。間の労苦を無にする不運に遭ふ場合も少ない。風害を少くするには、

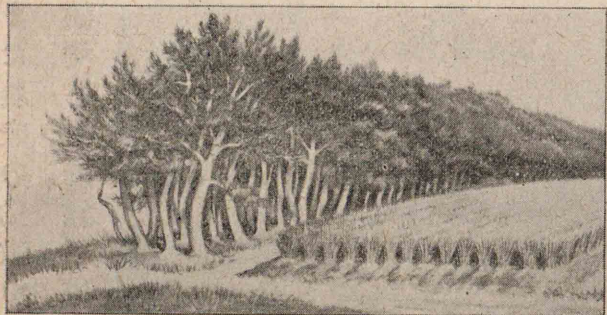
颱風一過農家は半年

- (一) 防風林を仕立てること。
- (二) 早中晩などの品種を併せ植ゑること。
- (三) 土寄支柱など栽培上の手入を十分にすること。
- (四) 果樹などは種類によつては棚作りのやうに防風の効の多い整枝をなすこと。

などが必要である。

凍害

春暖が催して若芽の伸び初める頃、不意



防風林

凍害

に寒氣が襲來して作物が黑變枯死する凍害もまた農家の勁敵である。凍害を防ぐには先づ天候に注意し、氣温を觀測して降霜の虞があれば、

(一) 小面積の土地には、蓆紙、葭簣などの被覆をなすこと。

(二) 燻煙法により、畑の各所に於て木屑、藁、青松葉、粗重油などを燻らし、煙で圃場の上を覆ふこと。

なごが必要である。そして根本的に霜害を防止するために、葡萄、柑橘、桑茶などの栽培地に於ては、傾斜地を利用することもある。なほ霜害の甚だしい土地では、

(一) 作物の根際に敷藁をすること。

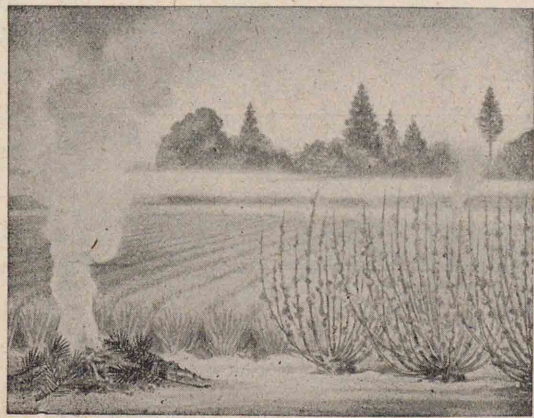
(二) 堆肥を多く施すこと。

(三) 鎮壓すること。

なごが必要である。

天候による災害にはなほ地方によつて雹害がある。

以上諸種の災害は殆ど不可抗力として古來農家の悩む所である。我等は栽培管理上、學理を應用し、經驗を重ね、所謂人事を盡して天命を待つ覺悟を持たなければならぬが、これと同時に災害保險の施設をなし、人力を以て損害の補填を圖るべきである。



燻煙法を行つてゐる様子

◎園藝作業 三月

一、蔬菜の手入

(イ) 播種

茄子・トマトその他の瓜類の播種 此等の播種は温床に於ては二月から本月にかけて行ふ。

葱・甘藍・高苜などの播種 此等の播種は冷床に於てし、本月下旬頃から四月にかけて行ふ。

菠薐草・二十日大根・夏大根・三寸胡蘿蔔・小蕪菁その他の苫類の播種 此等の播種は本月下旬から本圃に於て行ふ。

(ロ) 移植 苗床に播いた茄子・胡瓜などは成長すると共に假植して丈夫な苗に仕立てる。

二、花卉の手入

(イ) 春播草花の播種 彼岸を中心として播種する。

(ロ) 秋播草花の定植 秋播いて霜除の下で越冬した苗を花壇・鉢などに植込

む。

(ハ) 春植球根の植付 ダリア・カンナ・グラデオラスなどを植込む。

(ニ) 春植球根の施肥 移植して植付いたものに施肥する。

農業の貴重

第十二章 農業の貴重

職業

職業

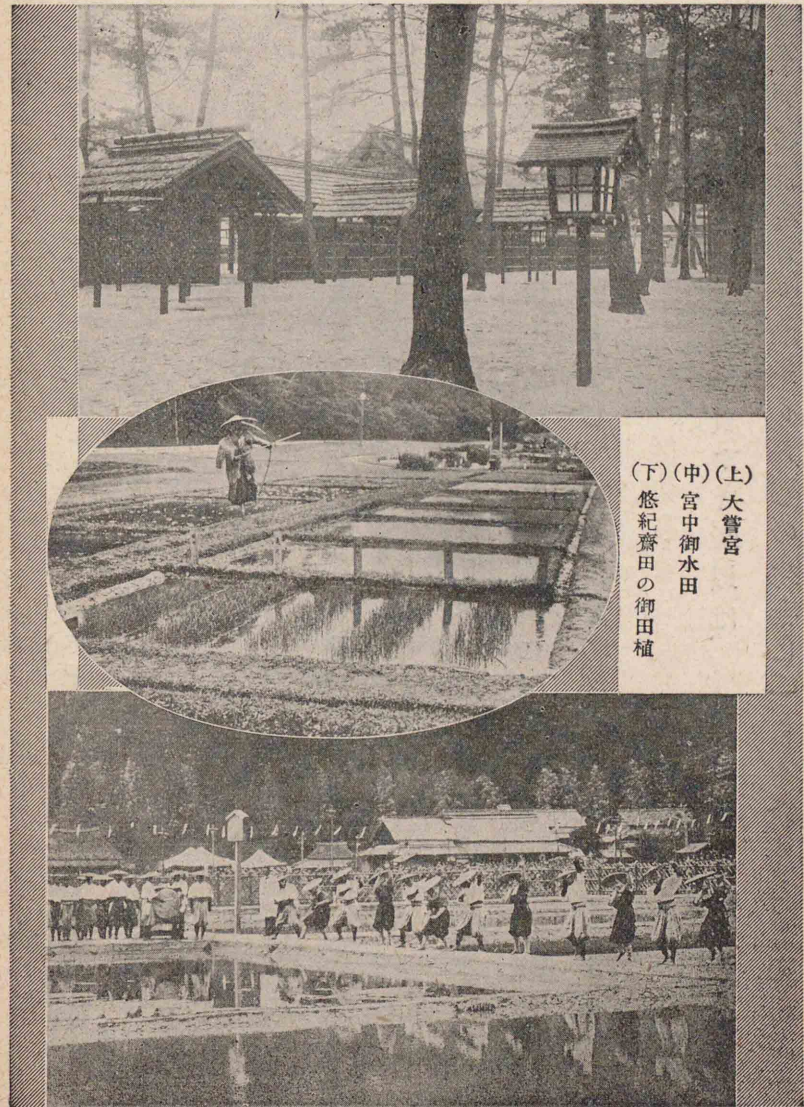
世には種々雑多な職業がある。職業は我等が生活の資を得ると共に國家社會に奉仕する道で、人生に必要なものであり、價値のあるものである。この意味に於て凡べての職業には貴賤上下の別のある筈がない。併し、各種職業の性質に就いてよく考へれば、農業が他の何れの職業にも増して尊く、また特殊の地位を占めてゐることが分る。

農業の貴重な所以

農業の貴重な所以

農業の貴重な所以は、

(一) 農業は母なる大地から人類の生存に一日も缺くことの出來な



(上) 大嘗宮
 (中) 宮中御水田
 (下) 悠紀齋田の御田植

い衣食住の原料を作り出す仕事である。世に生産と稱せられる仕事は極めて多いけれども、農業のやうに土の上に眞の意味に於て作り出す即ち創造するものはない。第一義的の生産は農業によつてだけ行はれる。この意義は、恐らく人類が土地の力を藉りないで直接に食料その他の原料を生産し得る道を發明しない限り、永遠に變らないであらう。

(二) 太古人類の祖先が土地を利用して農耕の術を發明して、自給自足の道を講じ、次いで商工業が分離發達して、世の文化は燦然として輝いて來たのであるが、その根柢は何といつても人類の努力によつて、自然に順應しつつ、人類生活に必要な物質を作り出して來た農業の力に歸しなければならぬ。換言すれば、人類文化の建設は農業によつて始められたのである。農業が文明の母と稱せられるのは固より當然であつて、今日の文化の惠澤に浴してゐる我

等は、人類發達の歴史から見ても、その母なる農業の偉大な貢獻を忘れることは出来ぬ。

(三)我等の屬する社會の中で最も重要なものは國家である。強固な國家の下に生活することの出来る國民ほど幸福なものはない。そして、強固な國家の基礎は農業によつて築かれるものであつて、農業の振否と國家の消長とは最も密接な關係を有する。交通運輸の發達した今日に於ては、國民生活の資料殊に食糧を外國に仰ぐことは必ずしも困難ではないけれども、一朝有事の場合にはそれが極めて困難となる。食糧を自給して國民生活を安定させるには、必ず農業の力によらなければならぬ。我等は農業による生産を増加し、國內の需要を充すと共に、進んでは海外輸出を盛にして、國富の増大、國家經濟の裕福を圖ることが肝要である。

(四)更に我等は廣く眼を世界の大勢に注げば、農業が如何に重要で

あるかがおのづから明かになる。先づ農業に従事するもの的人口を見るに、英、白二國は工業國であつて、有職業者の三分の二以上が工業、鑛山業、商業及び運輸業に従事してゐる。また、米國及び獨逸の如きは、かなり多くの農業人口(米國二六%、獨逸三六%)を有するが、高度に發達した諸工業を有する國であつて、農工業國と稱するべきである。これに反して、南歐及び北歐の諸國に於ては、農業は依然として優越の地位を占めてゐる。印度の如き三億二千萬の總人口の中、農業に従事するものは、二億八千六百萬と稱せられてゐる。この點から見れば、世界人口の大多數は農業労働によつて生活を支持してゐるといふことが出来る。此等多數の農業者によつて生産される農業生産高は年一千億圓を超え、世界貿易市場に現れるものもなほ五百億圓の多額に達する。

(五)農業の貴重な所以は、單に物質上の問題だけでなく、農業者の生

活する農村は人物養成の苗床であり、國家活力の源泉である。我等は農村の自然の感化が偉大であると共に、農業の性質が如何に國民精神の作興に効果が多いかを思はずにはゐられぬ。

要するに、農業は人類の生存上缺くことの出来ない生活資料を生産する尊い職業であり、同時に、國家發展上最も重要な生産業である。「農は凡べての職業の中最も有用、最も健全、最も高貴な職業である。」といつたワシントンの言は常に新しい意義を有する金言である。

終

標準
職業教科書
〔園藝篇〕
二卷



昭和六年八月四日印刷
昭和六年八月八日發行
昭和十年十一月二十五日修正再版發行

著者

佐藤寛次

發行者

東京市小石川區小日向水道町八十四番地
株式會社 東京開成館
代表者 松本繁吉

印刷者

東京市小石川區西江戸川町二十一番地
佐藤精亮

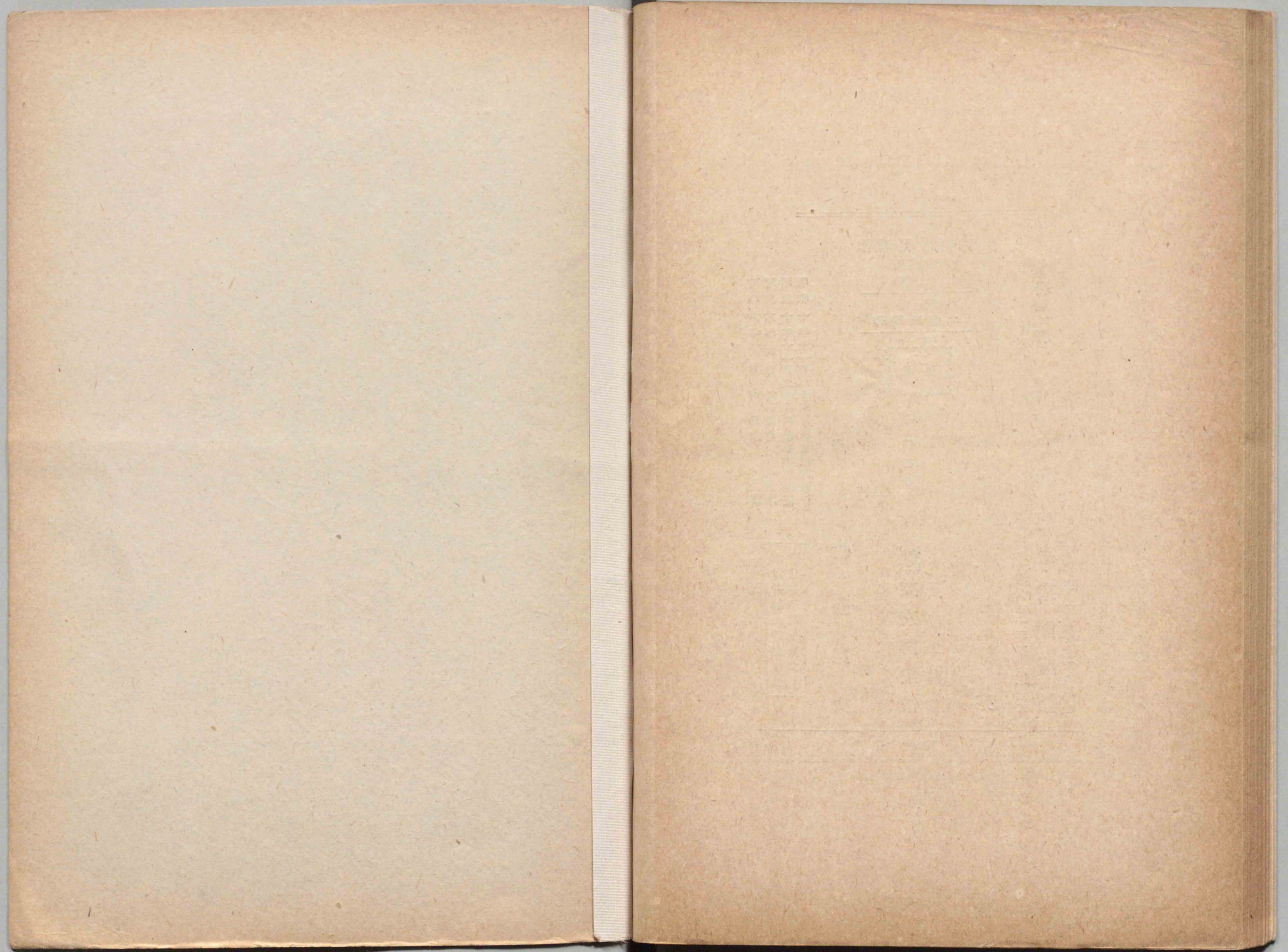
發行所

東京市小石川區小日向水道町八十四番地

〔電話〕大塚(88)三三三—三三三—三五
株式會社 東京開成館
振替貯金口座〔東京第五三三二二番〕

定價 金五拾錢

(富士印刷株式會社印刷)





広島大学図書

2000302814

